

石見銀山世界遺産センター

IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER

2008 年報

(平成20年度)



世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観
Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape

はじめに

「石見銀山世界遺産センター」は、平成16年11月、当時の熊谷國彦大田市長が、石見銀山遺跡の拠点施設について、島根県の支援を得ながら大田市立として整備することを表明し、整備事業を開始したところでもあります。

当時は、邇摩郡温泉津町・仁摩町との市町合併前であり、景観保全条例の制定、鉱区禁止地域の指定、国史跡の追加指定、世界遺産推薦書の作成など、島根県と1市2町の担当者が共同してさまざまな業務を重ね、拠点施設の立地場所、機能と規模、展示内容などを検討していた時期でもありました。

平成17年10月1日、新「大田市」が発足し、平成18年3月、立地場所を「市民ふれあいの森公園（大森町）」に決定し、同年6月議会で拠点施設整備事業が予算化され、建物は景観に配慮し、ガイダンス棟・展示棟・収蔵体験棟の3棟分棟方式とする設計といたしました。平成19年1月にガイダンス棟の建築工事に着手、同年10月4日、「ガイダンス棟」を先行して開所し、2期工事として残り2棟の建築工事と展示工事に着手し、平成20年10月20日、「石見銀山世界遺産センター」が全面開所し、現在に至っております。

この間、石見銀山遺跡は平成19年7月2日に「石見銀山遺跡とその文化的景観」としてユネスコの世界遺産に登録されました。「世界的に重要な経済・文化交流を生み出したこと、伝統的技術による銀生産方式を豊富かつ良好に残していること、銀の生産から搬出に至る全体像を不足なく明確に示していること」が世界遺産にふさわしい価値として認められたものですが、加えて「環境に配慮し、自然と共生した鉱山運営」という点が、世界遺産委員会の審議において高い評価を受けました。このような石見銀山遺跡の持つ顕著な普遍的価値を大切に守り、世界遺産として後世に継承していくため、この石見銀山世界遺産センターが拠点となるもので、さらにユネスコの「平和と人権尊重」の精神についても、広く伝える役割を果たしていきます。

また、石見銀山世界遺産センターの隣接地には約400台分の駐車場を備えており、来訪者が路線バスに乗り換えて遺跡の中心部と町並み保存地区へ向かう「パーク&ライド」の拠点となっており、併せて、「石見銀山遺跡の玄関」として遺跡の紹介だけでなく、周辺の地理案内等の情報提供も行っています。

石見銀山世界遺産センターでは、平成20年4月から島根県教育委員会の職員も駐在し共同で、石見銀山を守り、育み、価値を高め、活かす新たな取り組みを始めています。引き続き、調査研究を進め、世界遺産としての石見銀山遺跡の魅力を分かりやすく伝えていくためのガイダンス機能の充実を図り、皆さまのご期待に応えていけるよう取り組んでまいります。

この間、地元の方々をはじめ、文化庁、島根県、工事関係者等、石見銀山世界遺産センターのオープンにご尽力いただいた多くの皆さまに感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成21年11月

大田市教育委員会教育長 小川和邦

目次

はじめに

目次

I. 石見銀山世界遺産センターの概要

1. 設置の経緯と概要 4
設置の経緯／整備に関する主要経過／世界遺産センターの業務・組織／世界遺産センターがめざすもの
2. 施設の概要 8
施設の配置・規模等／館内平面図／全体配置図
3. 展示の概要 12
展示のコンセプト／第1展示室「世界史に刻まれた鉱山遺跡」／第2展示室「石見銀山の歴史と鉱山技術」／第3展示室「総合調査の成果」／第4展示室「未来に引き継ぐ石見銀山遺跡とその文化的景観」

II. 開館に向けての活動記録

1. ガイダンス棟開所式（先行オープン）・内覧会 17
地元関係者向け内覧会／開所式
2. フルオープン記念式典・内覧会 19
報道機関・地元関係者向け内覧会／フルオープン記念式典

III. 管理運営業務の実施状況

- 平成19年度・20年度の概観 21
概観／入館者の状況等／主な入館団体／誘客・広報事業

IV. 総合調査研究業務の概要

1. 考古学的調査研究 25
発掘調査の概要／石造物調査の概要／その他の調査の概要
2. 歴史・民俗学的調査研究 31
文献調査の概要／地図・地名、人権・同和問題調査の概要／教育普及方法等調査の概要
3. 自然科学的調査研究 35
考古資料分析調査の概要／生物調査の概要／資産保全調査の概要
4. テーマ別調査研究 37
石見銀山遺跡の調査研究の概要／鉱山遺跡比較調査研究の概要

V. 遺跡の保全・管理業務の概要

資産の経過観察（モニタリング）	41
概要／定期報告『保全状態の測定にかかる指標』（抄）	

VI. 教育・普及業務の概要

1. 公開講座の開催	43
第1回公開講座「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」／第2回公開講座「銀座と銀貨」	
2. 体験学習イベントの開催	45
福光石の加工体験／体験イベント～丁銀を作ってみよう！銀山の製錬作業を体験しよう！	
3. 情報コーナー展示の実施	47
清水谷製錬所跡発掘調査速報展／福光石の加工体験作品展	

VII. 石見銀山遺跡関連事業の概要

1. 遺跡整備事業	48
大森銀山地区重要伝統的建造物群保存修理事業／温泉津地区重要伝統的建造物群保存修理事業／史跡整備事業	
2. 情報発信事業	56
石見銀山遺跡世界遺産登録1周年記念事業／石州銀展	
3. その他の事業	59
石見銀山遺跡調査活用委員会／石見銀山遺跡保存管理委員会／石見銀山協働会議／大久保間歩一般（限定）公開	

VIII. 職員及び運営スタッフ

IX. 利用案内

X. 各種資料

1. 石見銀山遺跡に関する活動等日誌	67
2. 石見銀山関係予算	71
3. 刊行物等	73
4. 関連記事	74
5. 大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例	80
6. 大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例施行規則	84

（注）本年報内の所属・役職名等は、平成19年度及び20年度当時のものです。

I. 石見銀山世界遺産センターの概要

1. 設置の経緯と概要

設置の経緯

石見銀山遺跡は、銀の採掘から製錬、運搬・積み出しに至る鉱山経営の総体を表す「銀鉱山跡と鉱山町」、「港と港町」及びこれらをつなぐ「街道」で構成されています。その総体が良好なカタチで残り、かつ、周辺の自然環境と共生していることが評価され、平成19年7月2日、「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産に登録されました。

世界遺産登録を目指して、平成8年以降、様々な取り組みが行われましたが、その過程において、登録への助言を得るために現地へ招請した海外の世界遺産の専門家から、『広域に様々な遺構等が分布し、その内容が多様であることから、遺跡の価値を一般の人に分かりやすく説明する施設が必要』『世界遺産にふさわしいガイダンス・調査研究・保全機能を一体的に有する施設が必要』といった指摘がなされました。

また、近年の世界遺産の審査の傾向として、遺跡の保全体制が重要視されていることから、遺跡の保全・管理の拠点となる施設の必要性が高まりました。

このため、島根県と合併前の大田市・温泉津町・仁摩町とで、ガイダンス・調査研究・遺跡の保全体制などの拠点となる施設のあり方を検討しました。

その結果、拠点施設では、広範囲な遺跡の玄関口として、来訪者が石見銀山の価値や全体像について理解することを助ける機能（適切なガイダンス）とともに、遺跡の全容を明らかにし、価値を高めていくための調査研究、資料蓄積、情報発信、保全体制活用、施設管理運営の各機能を担うこととなりました。

そして、大田市が事業主体となり、平成17年度から整備の具体的作業に着手し、立地場所を石見銀山遺跡の中心である仙ノ山東側の裾野にある「市民ふれあいの森公園」（大森町）に決定、平成18年6月市議会で平成18～20年度の整備事業予算を措置し、整備事業を開始しました。

また、大森町地内での来訪者受入対策として「パーク&ライド方式」を実施するために、世界遺産センター周辺に400台収容の駐車場整備を行うことになったため、整備は、1期工事と2期工事に分割し、1期工事として、ガイダンス棟の建築、第2駐車場・第3駐車場の整備に先行着手しました。

そして、平成19年10月4日、石見銀山世界遺産センターを開所し、まずガイダンス棟をオープンしました。

その後は、ガイダンス棟で来訪者を受け入れながら、2期工事として展示棟と収蔵体験棟の建築工事と展示工事に着手し、平成20年10月20日、全面開所を迎えました。

整備に関する主要経過

平成16年11月	熊谷大田市長が、石見銀山遺跡拠点施設を整備することを表明
平成17年12月5日	大田市議会全員協議会において、拠点施設の立地場所として「市民ふれあいの森公園が適地である」と中間報告
平成18年2月10日	石見銀山遺跡調査整備委員会において、立地場所として「市民ふれあいの森公園」が適地であることを了承
平成18年3月12日	石見銀山協働会議が「石見銀山行動計画」を策定
平成18年3月17日	大田市議会全員協議会において、「市民ふれあいの森公園」を立地場所とすることを了承
平成18年3月	「史跡石見銀山遺跡保存管理計画」の策定
平成18年6月15日	石見銀山遺跡拠点施設の整備について、平成18～20年度継続事業の予算化
平成18年6月29日～	土木測量設計、敷地地質土質調査、建築基本設計業務に着手
平成18年12月13日～	建物敷地造成、第2駐車場整備工事着工（平成19年3月30日竣工）
平成19年1月24日～	ガイダンス棟建築工事着工（8月24日竣工）
平成19年1月31日～	第3駐車場整備工事着工（7月31日竣工）
平成19年2月22日～	第1駐車場部分整備工事着工（3月30日竣工）
平成19年3月	「石見銀山遺跡拠点施設等整備基本構想」の策定 「石見銀山遺跡拠点施設基本計画」の策定
平成19年4月28日～	石見銀山駐車場を核としたパーク＆ライド方式を導入
平成19年6月	「石見銀山遺跡拠点施設展示基本計画」の策定
平成19年8月1日	第3駐車場供用開始
平成19年10月1日	「大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例」の施行。施設名称は「石見銀山世界遺産センター」
平成19年10月1～2日	ガイダンス棟内覧会（大森町・水上町民他）
平成19年10月4日	ガイダンス棟開所式。一般供用を開始
平成19年12月4日～	展示棟・収蔵体験棟建築工事着工（平成20年10月1日指定部分引渡、平成21年2月27日竣工） 展示工事着工（平成20年10月8日指定部分引渡、平成21年3月24日竣工）
平成20年8月	ガイダンス棟入館者が20万人突破
平成20年9月12日	大田市は「人権尊重都市」を宣言
平成20年10月15日	石見銀山世界遺産センター内覧会（大森町・水上町民他）
平成20年10月20日	石見銀山世界遺産センターフルオープン記念式典。午後より一般供用
平成20年11月22日	展示室観覧者が1万人突破

世界遺産センターの業務・組織

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」全体の導入部（案内の玄関口）として、総合ガイド機能を持ち、遺跡の保存や管理などを担う拠点施設として、専門職員及びスタッフ等が常駐します。

1) 世界遺産センターが担う業務

◇ガイドランス（遺跡を見て回る人に対して遺跡の価値や全体像の理解を促進）

- ①遺跡立体模型での説明やガイドランス映像の上映
- ②案内窓口の設置とスタッフの常駐
- ③地図・パンフレットの配布

◇展示・解説

- ①遺跡全体の解説や収集資料（含むレプリカ等）の展示と解説
- ②新たな調査・研究成果の展示と解説
- ③館内案内職員、専門職員による総合解説

◇調査・研究

- ①調査・研究活動の拠点
- ②研究発表、シンポジウム等の開催

◇保全・管理

遺跡の保全・管理

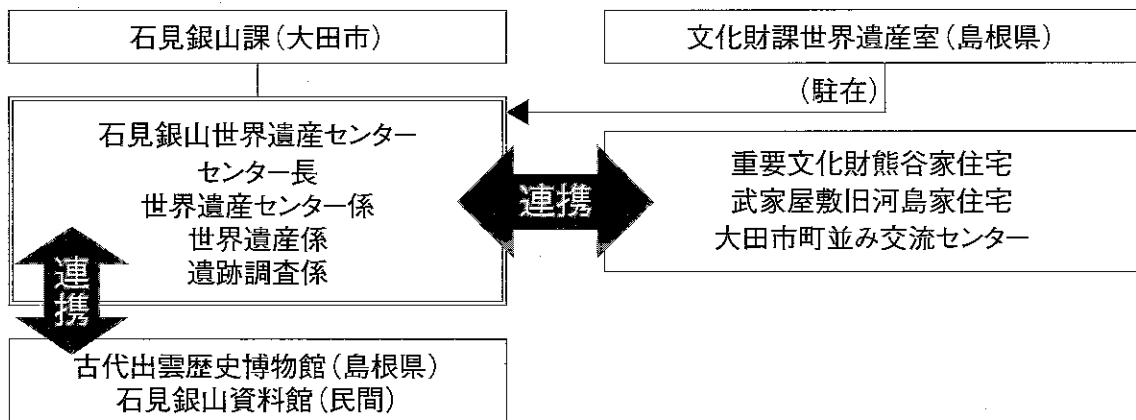
◇教育・普及

- ①案内書、解説書等の作成
- ②ホームページ等による情報発信
- ③体験学習（丁銀づくりや灰吹体験など）の実施
- ④講演会、講座等の開催

◇収集・保管

- ①関係史資料の収集及び保管
- ②史資料等のデータベース化

2) 組織



世界遺産センターがめざすもの

◇ユネスコの精神をまもり、未来へ引き継ぎます

平和と人権尊重の国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の精神に基づき、人類全体の宝である石見銀山遺跡をまもり、未来へ引き継いでいきます。

◇石見銀山の理解を助け、現地へ誘います

鉱山跡など多種多様な資産で構成され、かつ、広大な面積を有しているため一目ではわかりにくいと言われる石見銀山遺跡の全体像の理解を助けるため、適切なガイダンスを行います。そして、資産そのものである現地へ足を運び、見て、触れる機会を増進します。

◇調査研究を積極的に行います

考古、文献などの人文分野と、科学、自然環境などの自然科学分野を密接に連携を取り合いながら総合的な調査研究を進めます。また、国内外の鉱山遺跡との比較研究などテーマ別の研究も行い、情報発信します。

◇遺跡の保全管理活用を継続的に行います

良好なかたちで今に伝わる資産を適切なかたちで未来へ引き継ぐために、遺跡パトロールなど日常の保全管理に努めます。同時に、継続した保全活動が実施できるよう官民協働の取り組みも実施します。また、現地資産そのものが展示物とみなされるため、資産の整備活用を進めます。

◇親しみのもてるセンターとします

現地施設と連携を密にし、地域住民が誇りを持ち、学校教育や生涯学習の機会のある場として、観光客を含め何度でも来館したくなるような交流拠点とします。また、現地説明会や体験学習、講座講演会などを定期的で開催し、親しみが持てる地域に開かれた運営を目指します。

2. 施設の概要

施設の配置・規模等

立地場所が銀山柵内・仙ノ山の東側裾野にある「市民ふれあいの森公園」地内であるため、大田市の「石見銀山景観保全条例」に規定する景観保全地域（世界遺産のバッファゾーン〔緩衝地帯〕）内にあることから、規模の調整や周辺景観との調和、環境への負荷軽減を考慮しました。具体的には、土地の形状に大きな改変を加えずに芝生広場の区画に建物を配置し、不足する駐車場は隣接地に整備するなどの基本計画を立て、用地測量設計・地質土質調査、建築基本設計を行いました。特に配慮したことは次の3点です。

①施設規模

景観保全地域内であることを考慮して、1棟あたりの規模総高を低減する必要性があり、ガイダンス棟、展示棟、収蔵体験棟の3棟分棟方式としました。

②建物の構造・建材と外観の工夫

遺跡地区や周囲に残存する歴史的建造物や民家などとの調和を第一に考え、全体は木造風で階高を押さえ、切妻の瓦葺き屋根としました。ガイダンス棟は大森代官所表門及び門長屋を参考にして、木造平屋建てとし、玄関に入ったエントランスの木材は近隣から調達し、化粧石材は福光石（温泉津町産）、石垣は大屋石（大屋町産）を使用しました。屋根瓦は来待袖葉の石州瓦（水上町で焼成した赤瓦）とし、瓦の反りや照りを考慮して赤茶系4色の混ぜ葺きとしました。また、外観は土壁（珪草土）、板張腰壁、木製建具を配置しました。

展示棟と収蔵体験棟は鉄筋コンクリート造りの一部2階建てとしましたが、外観はガイダンス棟の意匠を踏襲し、全体のプロポーションが整うよう配慮しました。

③環境への負荷軽減

浄化槽を土壌微生物膜合併処理式とし、処理水を中水としてセンター内で循環利用することとしました。これにより、大森町の重伝建地区内を流れる銀山川への放流水は最小限にとどめています。

[土地及び建物のデータ]

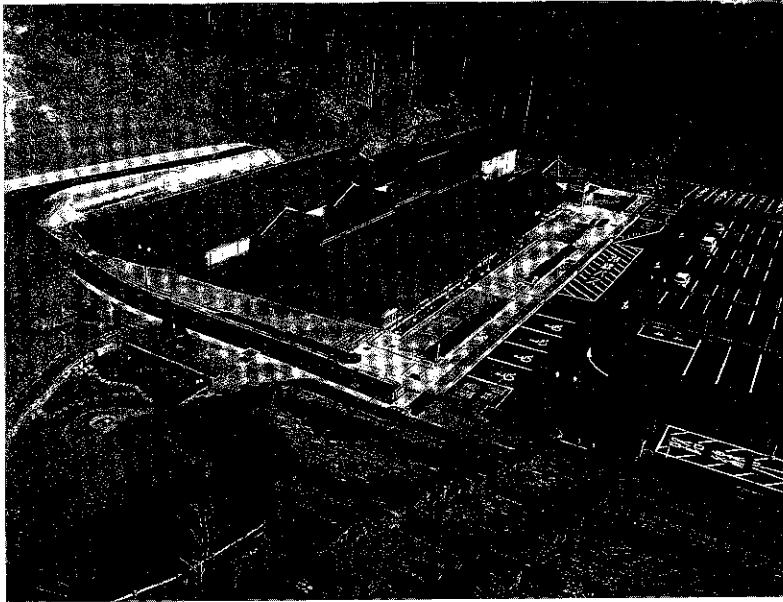
①所在 島根県大田市大森町イ1597番地3（第3駐車場：大森町イ1689番地（借地））

②用地関係

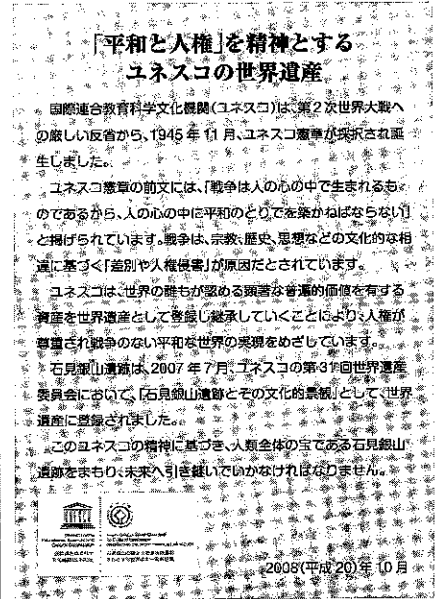
用途	面積	駐車台数など
建物敷地	4,100㎡	
第1駐車場	5,700㎡	普通車95台、身障者用4台、待機バス13台
第2駐車場	950㎡	普通車38台
第3駐車場	9,800㎡	普通車約250台

③建物関係

名称	延べ面積	構造	機能・役割
ガイダンス棟	763.47m ²	木造瓦葺き平屋建て	ガイダンス・便益（無料）
展示棟	720.69m ²	R C造瓦葺き一部2階建て	展示・解説（有料）、調査・研究、教育・普及
収蔵体験棟	477.53m ²	R C造瓦葺き一部2階建て	体験学習、収蔵・保管
便所棟（既存）	111.78m ²	木造瓦葺き一部2階建て	



▲ 世界遺産センター全景



▲ ユネスコ憲章（パネル）



▲ エントランスホール

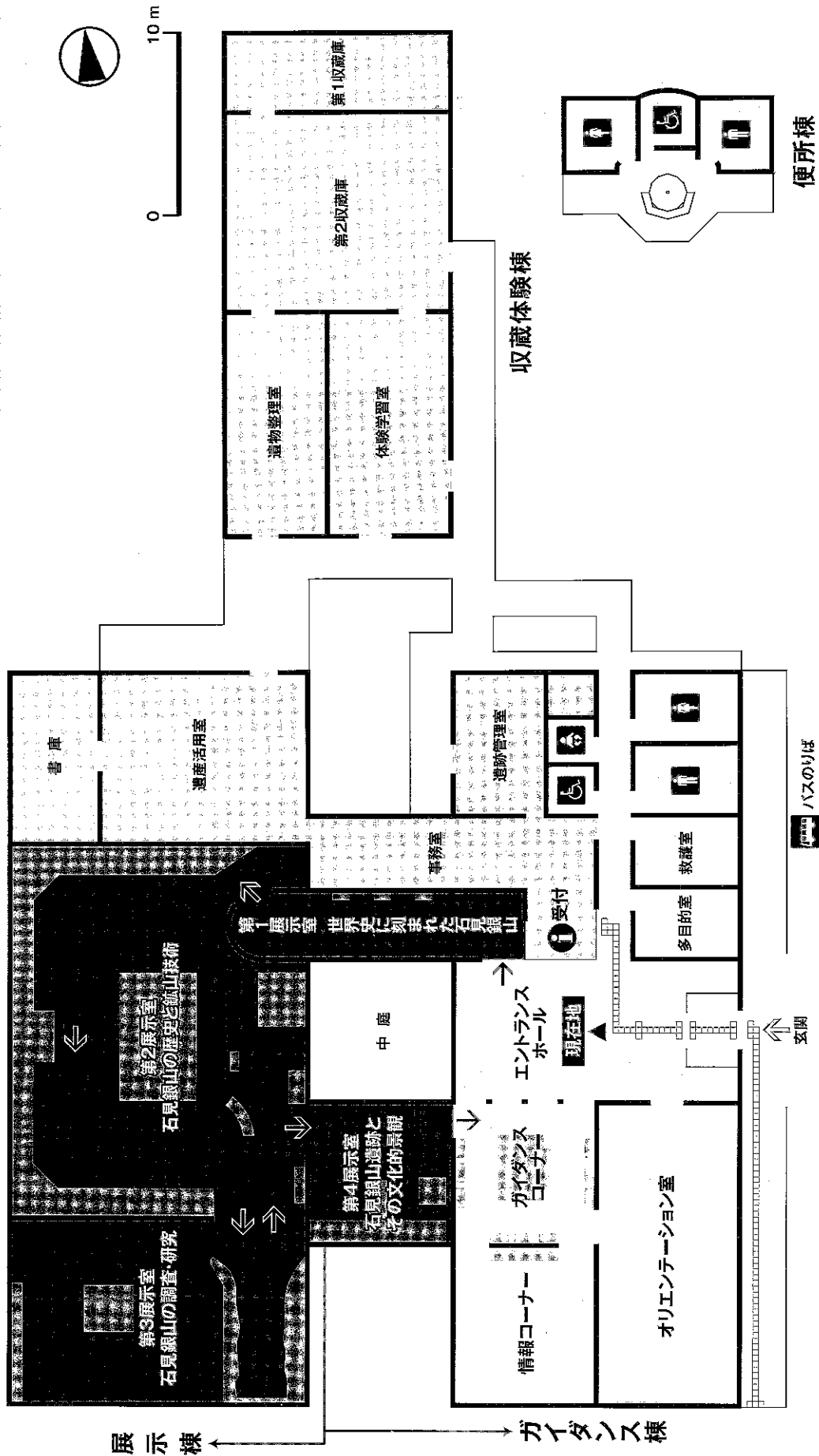


▲ ガイダンスコーナー

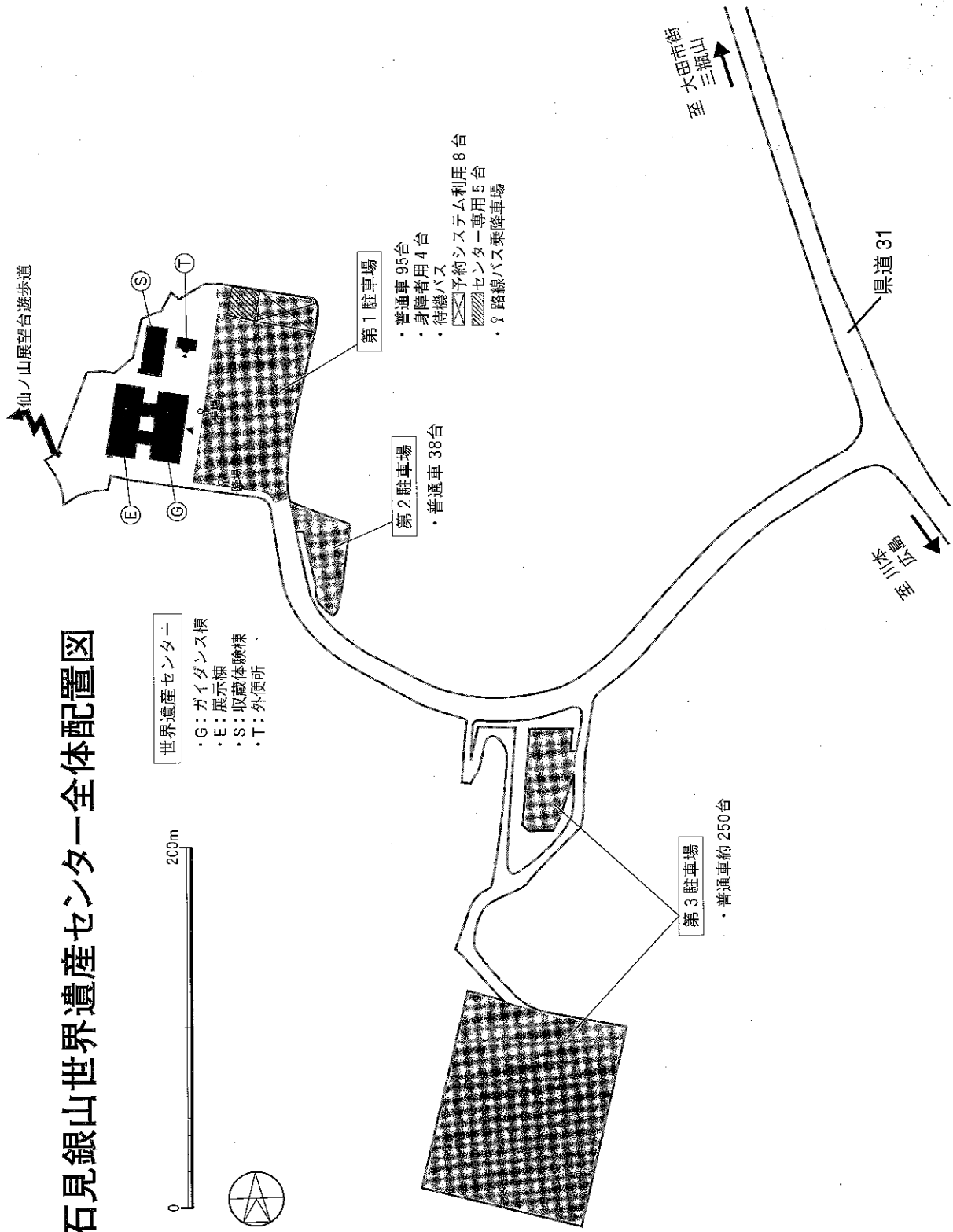
石見銀山世界遺産センター 館内平面図

IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER

ガイダンス・便益 (無料) : エントランス、オリエンテーション室、ガイダンスコーナー、情報コーナー、多目的室・救護室、トイレ
 展示 (有料) : 大人300円 (250円)・小中150円 (100円)
 管理区域 : ガイダンス棟 (執務室等) 展示棟 (遺産活用室、書庫等) 収蔵体験棟 (体験学習室、第1・2収蔵庫、遺物整理室)



石見銀山世界遺産センター全体配置図



3. 展示の概要

展示のコンセプト

石見銀山世界遺産センターは、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」（以下、「石見銀山」という。）のエントランス（入口）として、遺産のガイダンス（概要説明）機能を担います。したがって、実物の歴史資料で構成される博物館や資料館とは性格が異なり、模型や、映像、レプリカ、再現品を中心に構成されています。また、埋蔵文化財センターとしての機能を有しており、発掘による出土遺物の展示を行っています。

展示テーマは石見銀山が世界遺産に登録された「3つの価値」についてと、平成8(1996)年から進めてきた「石見銀山遺跡総合調査の成果」という、合計4つのテーマから構成されています。

第1展示室「世界史に刻まれた鉱山遺跡 — 石見銀山」

世界遺産の登録基準（ii）影響/influence

石見銀山が16世紀の東西交易によって「人類の価値の重要な交流」に大きな役割を果たしたことを紹介しています。

展示項目	展示の概要	展示品
1. エントランス	展示室の入り口に象徴的な写真を設けることにより、来館者の関心を高める。	三本露頭壁面グラフィック
2. 16世紀の銀	16世紀の銀貨を紹介し、あわせて拡大レプリカを設置。来館者に直接触ってもらう。	御取納丁銀5倍拡大レプリカ 御取納丁銀実物大レプリカ
3. 16世紀の交易図	「世界遺産の世紀」と呼ばれる16世紀を、世界遺産で紹介しつつ、東西交易を解説。	東西交易図壁面グラフィック
4. 海外から見た16世紀の日本	16世紀、日本が「銀の島」と呼ばれていたことに関連し、日本や石見の海外の記録を紹介。	ティセラ図壁面グラフィック 聖フランシスコ＝ザビエル像レプリカ ティセラ図レプリカ 「日本の紹介」ポスター



◀ 第1展示室



◀ 御取納丁銀5倍拡大レプリカ

第2展示室「石見銀山の歴史と鉱山技術」

世界遺産の登録基準 (iii) 証拠/testimony

石見銀山は、採掘から製錬の技術、支配、信仰、生活、銀の流通に至るまでの銀生産の総体が遺構として残るという「独特かつ稀な証拠」です。これを①歴史、②くらしと技術という二つのサブテーマで解説しています。

①石見銀山の歴史

16世紀の神屋寿楨による「銀山発見」から、大森の町の形成まで、映像や資料写真、復元品等で解説しています。

展示項目	展示の概要	展示品
1. 銀山発見	石見銀山の発見は単なる発見ではなく、産銀国日本を生み出した端緒であることを紹介。	映像「銀山発見」 出土遺物（「発見伝承」絵下駄）
2. はじまりの石見	日本鉱業技術の原点である石見銀山の歴史的な役割を貴重な出土遺物で象徴的に表す。	銀鉱石（個人蔵） 出土遺物（「貴鉛」、鉄鍋、灰吹銀）
3. 銀山争奪戦	積み出し港や港町の歴史的背景の紹介と戦国大名による石見銀山の争奪戦を解説。	映像「銀山争奪戦」 戦国武将パネル
4. 徳川による鉱山支配	徳川支配下で、山師が拝領した道服を紹介するなど最盛期の石見銀山の栄華を解説。	辻が花染丁子文道服再現品（期間展示） 釜屋間歩パネル
5. 銀山柵内と大森の町	銀山奉行による大森の町づくりと、現代に残る信仰や支配の痕跡を紹介。	石見国図複製 建築部材資料

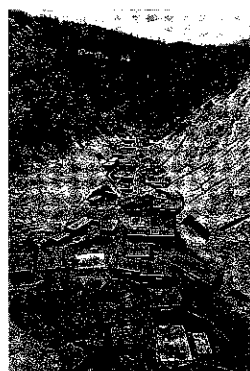
②石見銀山のくらしと技術

発掘調査の成果を中心に鉱山のくらしと技術を解説しています。

仙ノ山中腹に位置する本谷集落を再現。製錬工房は、解説映像と連動させて「灰吹法」を解説するコーナーです。また銀山絵巻を解説ボードに展開し、坑内模型、人形模型、製錬工房模型によって立体的に解説しています。

また、実物の銀貨幣を40数点展示し、クイズ形式のめくり什器によって銀の歴史的役割を紹介しています。

展示項目	展示の概要	展示品
1. 本谷集落復元	17世紀後半の本谷集落を1/60の縮尺で再現。谷間に集中する鉾山町の家並みと人々を配し、暮らしぶりを紹介。	本谷集落再現模型
2. 製錬工房 吹屋	製錬工房を実物大で再現し、作業の様子を表現した人形を配し、解説映像とともに灰吹法を説明。	吹屋再現模型 映像「銀をとり出す技術 灰吹法」
3. 銀山の暮らし	発掘調査で出土した生活関連の遺物を展示し、鉾山町の暮らしぶりを解説。	出土遺物 (下駄、櫛、簪、陶磁器、銭貨等)
4. 鉾山の技術	大森銀山図解の解説をボードーに展開。銀掘の人形2体で坑内作業の様子を表し、1/60スケールの大久保間歩奥部の坑内、1/30スケールの出土谷地区の吹屋、江戸銀座での銀鑄造の様子を再現。採掘から銀貨ができるまでを解説。	作業人形模型 坑内模型 製錬所模型 江戸銀座模型 出土遺物 (タガネ、分銅、羽口等)
5. 銀貨幣	16世紀、江戸時代、明治、大正、昭和の銀貨幣をレプリカと実物で紹介。	16世紀代銀貨レプリカ 銀貨幣実物 (江戸～現代、海外)
6. 石見銀山の近代化	明治期以降、大正12(1923)年の事実上の閉山に向かうまでの歩みを解説。清水谷製錬所の復元CGと藤田組関連資料を紹介。	清水谷製錬所復元CG 清水谷製錬所跡出土骨灰皿 「藤田組」銘陶器
7. 鉾山道具いろいろ	実物資料や復元制作された鉾山道具を小上がり什器と壁面展示で紹介。体験用のふいごで送風を追体験。	体験用ふいご 触れるかなめ石 鉾山道具再現品 (タガネ、山箸、分銅等)
8. Ag、銀のふしぎ	人と銀の関わり、歴史において銀の占めた比重の高さをクイズ形式のめくりパネルで紹介。	めくりパネル



◀ 本谷集落再現模型



◀ 吹屋再現模型

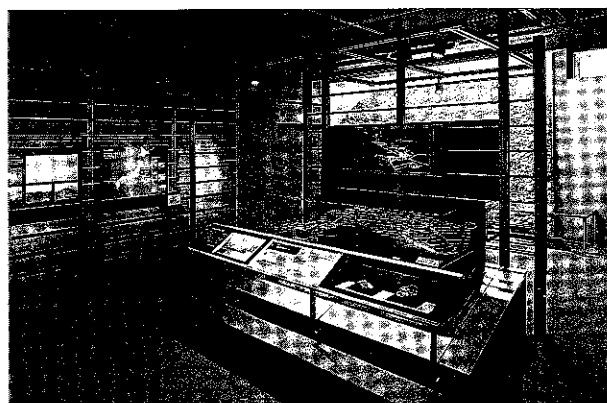
第3展示室「石見銀山の調査・研究」

自然科学、文献、石造物、間歩、発掘調査という学際的な調査研究成果の一端を紹介しています。併せて石見銀山の地質学的な背景から鉱脈や坑道の分布などを映像、模型等で解説しています。

展示項目	展示の概要	展示品
1. 大久保間歩再現	大久保間歩の坑内の一部をシリコンで型取りし、ガラス繊維強化コンクリートで造形。現地同様の質感を再現するとともに、解説映像の上映場所としている。	大久保間歩再現模型 紹介映像「大久保間歩」
2. 石見銀山総合調査	石見銀山における様々な調査の最新情報を提供し、学際的な解明を目指している「石見銀山遺跡総合調査」を紹介。	総合調査紹介パネル (科学、石造物、文献等)
3. 発掘調査の成果	発掘調査の成果として現地から剥ぎ取り持ち帰った遺構などを紹介。	ずり山剥ぎ取り 製錬遺構剥ぎ取り
4. 石見銀山の鉱床と地質	坑道図のレプリカとともに、現在確認されている石見銀山の坑道を1/800スケールで再現。地表面を等高線で表し、鉱床のでき方を映像で解説。	鉱床、坑道模型 坑内平面断面図レプリカ 映像「石見銀山の誕生」



▲ 大久保間歩再現模型



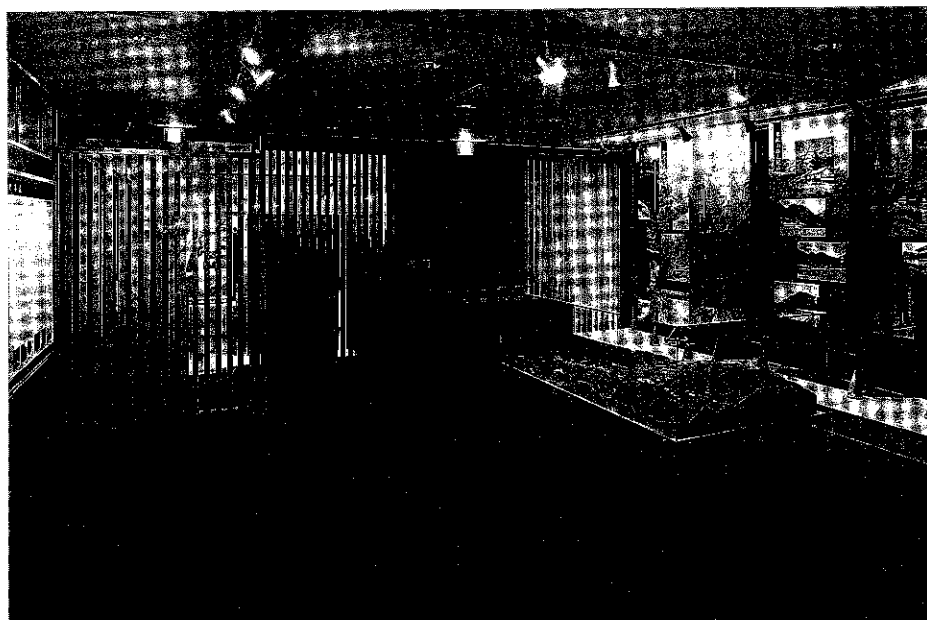
▲ 第3展示室

第4展示室「未来に引き続く石見銀山遺跡とその文化的景観」

世界遺産の登録基準（v）土地利用/land use

「鉱山跡と鉱山町、街道、港と港町の総体」という石見銀山の土地利用＝文化的景観を模型、映像、パネルで紹介しています。また、歴史年表を掲げ、石見銀山の保存活動が現在から未来に引き継がれていくよう愛護活動の様子を紹介しています。

展示項目	展示の概要	展示品
1. 大森の町並み	鉱山の閉山後、今なお人々が住み続ける大森の町を1/2000スケールの模型で紹介。	大森町並み模型
2. 文化的景観映像井戸	遺産のガイダンスの目的で、鉱山から港に至るまでの「見どころ」を紹介。	映像「未来に引き継ぐ石見銀山遺跡とその文化的景観」
3. 文化的景観	石見銀山の独特な「土地利用」を写真で紹介。	遺産各所写真



▲ 第4展示室

Ⅱ. 開館に向けての活動記録

1. ガイダンス棟開所式（先行オープン）・内覧会

平成19年10月4日(木)、石見銀山世界遺産センターのガイダンス棟が開所しました。

この開所に際して、10月1日、2日の午前10時～12時に、地元住民と関係者を対象とした「内覧会」を行いました。参加された方々からは、『銀山中樞の仙ノ山の山裾に立地するというのが良い』、『広く様々な要素で構成される石見銀山の全体像がわかりやすく説明されている』との感想が聞かれました。

開所当日には、午前11時から正面入口で関係者50人が出席して「開所式」を開催しました。竹腰創一大田市長による式辞、そして来賓を代表して藤原義光島根県教育長、有光孝次大田市議会議長から祝辞をいただきました。

また、大森小学校全児童でつくる「石見銀山遺跡愛護少年団」が、『世界遺産に登録され大森町が世界の宝になったと喜んでいますが、町や遺跡を将来にわたって大切にしようとして新たに決意しました』と力強く宣言しました。

そして、13人の大森小学校児童と9名の来賓の方々によるテープカットで開所を祝いました。その後、午後から一般公開を開始し、県外の観光客を含め約250人の来館者を迎えました。

地元関係者向け内覧会

(開催日時) 平成19年10月1日(月)、2日(火) 10:00～12:00

(開催場所) ガイダンス棟各展示室・オリエンテーション室

(内 容) ガイダンス展示と施設の案内

開所式

(開催日時) 平成19年10月4日(木) 11:00～11:45

(開催場所) ガイダンス棟玄関

(内 容) ①開 式 の 辞

②式 辞…大田市長 竹腰創一

③来 賓 祝 辞…島根県教育長 藤原義光氏
大田市議会議長 有光孝次氏

④テープカット…島根県議会議員 藤山勉氏
島根県議会議員 和田章一郎氏
島根県教育長 藤原義光氏
大田市議会議長 有光孝次氏
大田商工会議所会頭 寺戸隆文氏
銀の道商工会会長 森崎禎璋氏

大森町文化財保存会長 吉岡寛氏
石見銀山資料館理事長 中村俊郎氏
大田市長 竹腰創一
市立大森小学校全児童13名

⑤閉式・開館
(出席者) 50名



▲ 開所式

2. フルオープン記念式典・内覧会

報道機関・地元関係者向け内覧会

有料展示室に展示品をほぼ並び終えたフルオープン直前の段階で、報道機関や地元大森町、水上町住民を対象に内覧会を開催しました。

(開催日時) 平成20年10月15日(水) 10:00~16:00

(来館者) 地元大森町と水上町の住民など関係者300名

フルオープン記念式典

平成20年10月20日(月)、石見銀山世界遺産センターはフルオープンしました。

式典に先立ち午前9時10分からガイダンス棟玄関口で「定礎式」を、午前10時からは「フルオープン記念式典」をオリエンテーション室で行いました。竹腰創一大田市長による式辞、そして来賓を代表して文化庁長官代理文化庁文化財部記念物課調査官三宅克広氏、参議院議員亀井亜紀子氏、青木幹雄参議院議員代理秘書青木一彦氏、島根県知事代理島根県教育長藤原義光氏、島根県議会議長代理島根県議会副議長多久和忠雄氏、大田市議会議長石原安明氏から祝辞をいただいたのはじめ、80名の来賓者を迎え式典を開催しました。式典終了後には9名の方々によるテープカットで開館の時を迎えました。

その後、一般公開を前に有料展示室の内覧会に移り、御取納丁銀5倍拡大銀製レプリカなどの常設展示と、中村コレクションを始めとする特別展示のお披露目となりました。そして、午後1時から一般公開。216名の観覧者を迎えました。

(1) 定礎式

(開催日時) 平成20年10月20日(月) 9:10~9:25

(開催場所) ガイダンス棟玄関口

(2) 記念式典

(開催日時) 平成20年10月20日(月) 10:00~11:30

(開催場所) オリエンテーション室、ガイダンス棟エントランスホール、有料展示室

(内 容) ①開 式 の 辞

②式 辞……大田市長 竹腰創一

③事業経過説明……大田市教育委員会教育部石見銀山課長 小野康司

④来 賓 祝 辞……文化庁文化財部記念物課調査官 三宅克広氏

参議院議員 亀井亜紀子氏

青木幹雄参議院議員秘書 青木一彦氏

島根県教育長 藤原義光氏

島根県議会副議長 多久和忠雄氏

大田市議会議長 石原安明氏

- ⑤来賓紹介
- ⑥祝電披露
- ⑦閉式の辞
- ⑧テープカット……文化庁文化財部記念物課調査官 三宅克広氏
参議院議員 亀井亜紀子氏
島根県教育長 藤原義光氏
島根県議会副議長 多久和忠雄氏
大田市議会議長 石原安明氏
石見銀山資料館理事長 中村俊郎氏
大森町文化財保存会長 吉岡寛氏
大田市長 竹腰創一

⑨記念内覧会

(出席者) 80名



▲ テープカット



▲ フルオープン記念式典



▲ 記念内覧会

Ⅲ. 管理運營業務の実施状況

平成19年度・20年度の概観

概観

平成19年秋は、同年7月の世界遺産登録の効果の影響で、予想をはるかに超える多数の来訪者が訪れ、休日には駐車場は満車状態が続き、駐車場整理業務が増大しました。

来訪された多くの方が、先を急ぐように路線バスに乗り、遺跡や町並み等の現地へ行かれたため、現地から戻ってセンターに来館する方が多くなる傾向が続きました。そこで、初めての来訪者に対し、現地を見学する前の事前学習（予習）として、来館していただけるよう誘導に努めました。

また、温泉津や仁摩など他の現地資産にも足を運んでいただくなど、何度も石見銀山を訪れていただけるような説明も行いました。

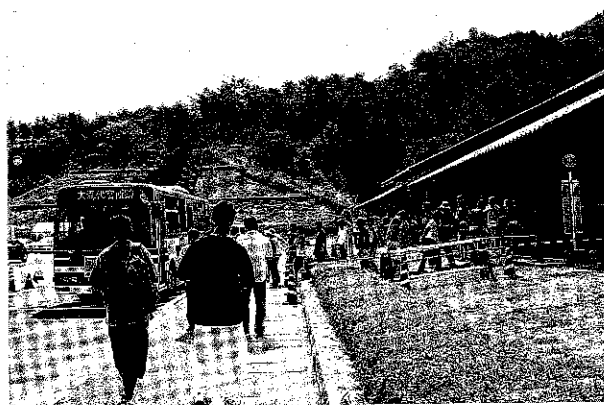
その後、国内の各地域からのマイカーが増えるとともに、来訪者の服装・履き物も歩きやすいスタイルに変わってきました。大森銀山地区内において導入した「歩く観光」が徐々に浸透してきた成果と言えます。

多客期は3月中旬から11月下旬までで、ピーク時は5月GW・お盆休み・秋行楽シーズンです。全ての駐車場が満車になる日も年に10日程度は発生することから、約6km離れた国道9号沿いの仁摩から町並みへのシャトルバスの運行や、交通整理・他観光地への分散誘導を行う警備員の増員配置等について観光関係者と連携した受入対応策に取り組みました。

フルオープン以降は、展示棟・展示室の公開（有料）を開始し、多くの皆さまに石見銀山遺跡の全体像をより深く理解していただくことができました。



▲ 駐車場への進入を待つ渋滞車両



▲ 路線バスに乗車する大勢の観光客

入館者の状況等

平成19年度の総入館者数は109,718人でした。

平成20年度の総入館者数は190,638人（先行オープンからの累計300,356人）、展示室観覧者数は26,355人で、展示室観覧料収入額は7,360,150円でした。

利用状況は次のとおりです。

<平成19年度>

(平成19年10月4日～平成20年3月31日)

【入館者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者	/	/	/	/	/	/	33,702	38,896	8,903	7,056	4,814	16,347	109,718

<平成20年度>

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

※展示室観覧者数及び観覧料収入については、平成20年10月20日～平成21年3月31日

【入館者数・観覧者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者	18,594	29,121	11,198	13,819	28,220	14,593	18,635	22,968	8,416	4,618	6,077	14,379	190,638
展示室観覧者	0	0	0	0	0	0	3,467	8,573	3,418	2,368	2,894	5,635	26,355
有料観覧者	0	0	0	0	0	0	3,403	8,332	3,209	2,316	2,838	5,437	25,535
一般	0	0	0	0	0	0	3,053	7,134	2,705	2,116	2,494	5,008	22,510
大人	/	/	/	/	/	/	3,014	6,932	2,563	1,978	2,419	4,702	21,608
小中学生	/	/	/	/	/	/	39	202	142	138	75	306	902
団体	0	0	0	0	0	0	348	1,197	502	196	339	421	3,003
大人	/	/	/	/	/	/	348	1,178	476	195	321	397	2,915
小中学生	/	/	/	/	/	/	0	19	26	1	18	24	88
その他割引利用者	0	0	0	0	0	0	2	1	2	4	5	8	22
大人	/	/	/	/	/	/	2	1	2	2	5	6	18
小中学生	/	/	/	/	/	/	0	0	0	2	0	2	4
無料観覧者(学校・身障者等)	0	0	0	0	0	0	64	241	209	52	56	198	820
大人	/	/	/	/	/	/	64	163	109	27	55	155	573
小中学生	/	/	/	/	/	/	0	78	100	25	1	43	247

【観覧料収入】

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
展示室観覧料収入	/	/	/	/	/	/	998	2,407	912	664	820	1,560	7,360

主な入館団体

<平成19年度> (平成19年10月4日～平成20年3月31日)

来館日	団体	来館日	団体
10月13日(土)	大田市山村留学センター	1月18日(金)	西条市議会
10月26日(金)	県都市開発グループ	1月19日(土)	クラブツーリズム
10月27日(土)	安芸高田市	1月23日(水)	台湾中国科技大学
11月1日(木)	石川県議会	1月24日(木)	台湾中国科技大学
11月11日(日)	笠岡市 ほか	1月29日(火)	石川県市議会議員 ほか
11月19日(月)	石見銀山遺跡調査整備委員会	2月7日(木)	石見銀山遺跡調査活用委員会 ほか
11月28日(水)	つづらこ学級	2月15日(金)	江の川文化園会議
12月4日(火)	県商工会議所連合会 ほか	2月26日(火)	大田市校長会
12月11日(火)	川本町立三原小学校	3月1日(土)	J R西日本広報部 ほか
12月12日(水)	温泉津老人会 ほか	3月4日(火)	滋賀県内団体
1月16日(水)	大田市立高山小学校	3月27日(木)	J A兵庫南

<平成20年度> (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

来館日	団体	来館日	団体
5月1日(木)	大田市立池田中学校 ほか	12月1日(月)	トヨタカローラ青森
5月21日(水)	大田市立温泉津小学校 ほか	12月2日(火)	大分ふるさと小包旅行会
5月23日(金)	富士市	12月3日(水)	浜山市立浜田東中学校 ほか
5月29日(木)	近畿日本ツーリスト	12月5日(金)	美郷町立邑智小学校 ほか
6月3日(火)	富山県議会	12月6日(土)	甲田工業 ほか
6月19日(木)	大田市立第三中学校	12月8日(月)	磯島実行組合
7月3日(木)	浜田市役所 ほか	12月9日(火)	鹿野生改連
7月5日(土)	島根県立大学	12月11日(木)	江津工業高等学校
7月11日(金)	(社)日本電力建設業協会 ほか	12月13日(土)	若杉町生産組合
7月19日(土)	さいたま市議会	12月14日(日)	阿新地域協議会
8月4日(月)	大田市内小中学校新規採用職員	12月17日(水)	吹田有志の会
8月12日(火)	大田市内小中学校職員	12月20日(土)	安田女子大学
8月21日(木)	長崎市議会 ほか	1月14日(水)	ひのあし会
9月21日(日)	しまね県民大学「しまね・ふるさと学」受講生	1月16日(金)	美浜町互助会
10月12日(日)	鳥取県生涯学習課 ほか	1月21日(水)	美浜町互助会
10月20日(月)	靖和堂	1月23日(金)	大田市中学校長会
10月21日(火)	東広島市役所	1月26日(月)	防府飲食業組合
10月22日(水)	くにびき学園 ほか	1月28日(水)	大田市立久屋小学校
10月23日(木)	長野県議会 ほか	1月29日(木)	タビックスジャパン関東
10月24日(金)	朝日旅行	1月30日(金)	大田市立志学小学校 ほか
10月25日(土)	山陽空調工業 ほか	1月31日(土)	タビックスジャパン関東
10月27日(月)	小田原法人会	2月1日(日)	同志会
10月28日(火)	鉄道OB会柳井分会	2月5日(木)	クラブツーリズム
10月29日(水)	匹見公民館 ほか	2月6日(金)	県西部議員懇話会 ほか
11月2日(日)	岡山トヨベツト	2月7日(土)	日本ボーイスカウト下松第5団
11月4日(火)	香川県傷痍軍人会	2月8日(日)	小竹正(株)
11月7日(金)	第60回都市計画全国大会 ほか	2月9日(月)	阿部忠
11月9日(日)	神西コミュニティセンター ほか	2月11日(水)	クラブツーリズム
11月10日(月)	大田市立朝波小学校 ほか	2月12日(木)	有田中央第二共撰
11月11日(火)	邑南町立高原小学校 ほか	2月13日(金)	読売旅行 ほか
11月12日(水)	J A斐川女性部 ほか	2月19日(木)	島根県市議会議員
11月13日(木)	J Aおやま ほか	2月21日(土)	神崎団体長
11月14日(金)	西彼町林業振興会	3月2日(月)	J A筑前あさくら年金友の会
11月15日(土)	松江東高等学校PTA ほか	3月3日(火)	大田市立久手小学校 ほか
11月16日(日)	荘原公民館 ほか	3月4日(水)	大田市婦人団体連絡協議会 ほか
11月17日(月)	J A足利 ほか	3月6日(金)	湖陵コミュニティセンター
11月18日(火)	柳井地区自治会協議会 ほか	3月11日(水)	赤穂市老人クラブ連合会
11月19日(水)	三次市立作木中学校 ほか	3月13日(金)	木下工業
11月21日(金)	波佐公民館	3月15日(日)	全国市町村国際文化研修所 ほか
11月23日(日)	ロータリー米山奨学生学友会	3月18日(水)	エルダーホテル協会
11月24日(月)	島根大学歴史学研究室 ほか	3月21日(土)	福泉寺
11月25日(火)	台与の会	3月22日(日)	笠岡FC
11月26日(水)	上川淵地区自治会連合会	3月28日(土)	大田市山村留学センター ほか
11月28日(金)	成子会	3月29日(日)	蔵木公民館
11月29日(土)	J T B錦友会 ほか	3月31日(火)	蓮安旅行社
11月30日(日)	千代田金属工業		

誘客・広報事業

昨年10月にフルオープンした石見銀山世界遺産センターを多くの方に知っていただくため、フルオープンの広報と並行して、展示室の内容を中心に、さまざまな媒体、マスメディア等を利用して宣伝に努めました。

主なPR活動の概要は、次のとおりです。

(1) 展示室入場者1万人達成記念セレモニー

10月20日のフルオープンから34日目の11月22日(土)に展示室の入場者が1万人に達しました。

1万人目の入場者は、山口県岩国市から家族で来られた柳井冷子さん一家。

記念のくす玉を割り、大田市の小川教育長から温泉津焼きのコーヒーカップや石見銀山の絵ハガキなど記念品を贈りました。



◀ 1万人達成記念セレモニー

(2) 「島根ふるさとフェア2009」でのPR活動

広島市で開催された「島根ふるさとフェア」において、石見銀山遺跡を広く紹介するとともに、昨年10月にフルオープンした「石見銀山世界遺産センター」の周知・誘客を図りました。

①日程

平成21年1月17日(土)～1月18日(日)

②時間

10:00～17:00

③会場

広島県立総合体育館 (広島市中区)

④内容

- 会場内にPRブース「世界遺産 石見銀山遺跡」を設置。
- 石見銀山を紹介するパネル展示、DVDの上映、パンフレットの配布
- 採掘道具(山鎚、山箸、鉄子)及び「御取納丁銀」のレプリカの展示
- プラスチック板を使っての丁銀づくり体験“なんちゃって丁銀”
- 石見銀山にまつわる物知りクイズ大会
- 「しまねバスツアー体験号」(屋外会場の貸切バス内)でのPR



◀ 大賑わいの銀山ブース

IV. 総合調査研究業務の概要

大田市と島根県では、世界遺産登録をめざし、過去10余年にわたって遺跡の総合調査を実施しています。登録後も、遺跡をよりわかりやすくし、その価値をより高めるために、これまでと同様の基礎的な（考古学的、歴史・民俗学的、自然科学的）調査研究だけでなく、新たに大きなテーマを掲げて実施するテーマ別調査研究をスタートしました。

1. 考古学的調査研究

この調査研究では、実際に遺跡に残る遺構や遺物を、発掘調査を中心とする考古学的手法により解析することで、文献や伝承に残る事柄を確認したり、記録にはない新たな事実を解明することを目的としています。

発掘調査の概要

石見銀山遺跡は、「遺構の確認と保存・整備の資料を得る」ことや、「400年に及ぶ鉱山都市の実態を明らかにする」ことなどを目的として発掘調査を行っています。これまで主に銀山柵内と大森地区において、銀山最盛期の支配・生産・生活関連の調査を実施してきましたが、平成20年度からは、これらに加え、近代の製錬所跡である清水谷製錬所跡の調査に着手しました。

調査体制は、調査員2名、調査補助員2名を調査班とし、石見銀山遺跡調査活用委員会の指導を受けて実施しています。

(1) 清水谷製錬所跡

調査位置 銀山柵内の清水谷地区北端に位置し、東向き丘陵斜面に立地。

調査期間 平成20年9月8日～平成20年12月24日（現地調査）

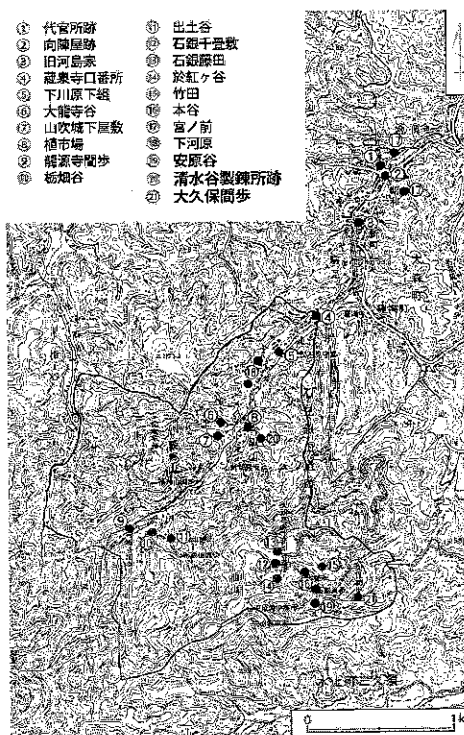
調査目的 平成20年度から着手した遊歩道整備事業に伴う、遺構の内容確認。

概要

清水谷製錬所は藤田組（現DOWAホールディングス）によって明治28（1895）年から29（1896）年までの約1年半という短い間だけ操業された近代的な製錬所跡です。

その後本格的な再開発が行われなかったため、当時の遺構が良好に残っており、調査によって石列状の建物の基礎などが確認されました。この建物の基礎は古写真に写っている建物の壁の位置と一致することから、操業当時の建物の痕跡であることが判明しました。

また、建物基礎石の上に堆積した土中から、キューベル（骨灰皿）が完形品だけでも7,000個以上出土しました。出土状態から、建物を解体後に廃棄されたものと考えられます。科学分析の結果、鉛成分等が検出され、試金銀用に用いられた可能性が高いことが判明しまし



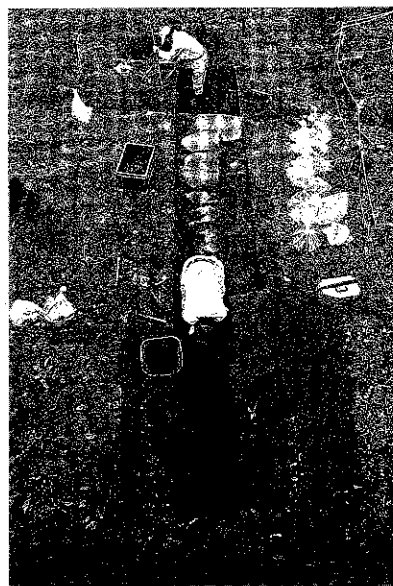
▲ 石見銀山遺跡調査地点配置図

た。鉱山遺跡からこれほどまとまってキューベルが出土した例は無く、大変貴重な資料となりました。この他にも、キューベルで生成されたボタン型の鉛塊や、坩堝、ガラスや陶磁器の容器片など明治期の鉱山技術を解明する上で貴重な資料が得られました。

こうした調査成果により、遺跡には明治期に短期間だけ操業した製錬所が改変を受けず、そのまま残されていることが明らかとなり、他の出土品も含めて、日本鉱業史、科学技術史を解明する上で画期的資料となるものと思われます。



▲ 清水谷製錬所跡



▲ 清水谷製錬所跡調査

(2) 安原谷地区

調査位置 銀山柵内の本谷から西に延びる安原谷に位置し、谷内に造成された平坦地に立地。

調査期間 平成21年2月4日～平成21年3月13日
(現地調査)

調査目的 整備計画検討のため。

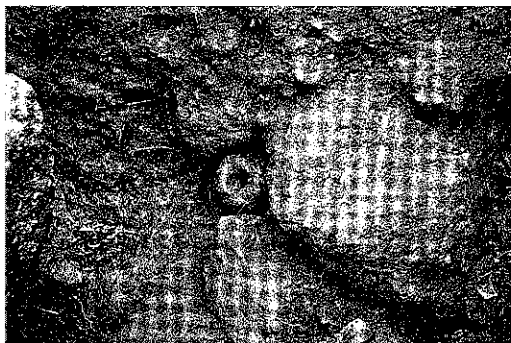
概要

安原谷地区では、これまでの調査で同一敷地内に建物跡、炉跡、水溜土坑などが確認されており、選鉱から製錬までを同じ敷地で行っていたことが判明していました。今年度は前年度調査区より上流の小平坦面に3ヶ所のトレンチを設定して、遺構の有無や内容確認を行いました。

調査の結果、17世紀代の遺構面を2面検出しました。また、同時期と思われる石垣等も確認しており、石垣を築いて平坦面を造成していることが明らかとなりました。遺物では、ふいごの羽口などが出土し、付近で製錬作業が行われていた可能性が高くなりました。こうした成果により、幅の狭い谷奥の矮小な平坦地における土地利用の一端が明らかとなりました。



▲ 安原谷調査



▲ ふいごの羽口

(3) 大久保間歩

調査位置 銀山柵内の本谷下流部に位置し、南東に開口した大久保間歩の前面に立地。

調査期間 平成21年2月4日～平成21年3月13日（現地調査）

調査目的 平成19年度から着手した安全対策事業に伴う、遺構の内容確認。

概 要

安全対策工事に伴い、遺跡の内容確認を目的に調査を実施しました。平成19年度の調査で坑内には明治期の枕木等が良好に残っており、当時の稼業の実態を知るために貴重な資料が得られており、さらに、明治期の遺構面の下層には江戸期の遺構面が存在することも判明していました。20年度は坑口前について主に明治期の遺構面を確認しました。

調査の結果、調査区全体で明治期の遺構面が確認され、明治期には坑口前がほぼ水平に整地されていたことが明らかとなりました。また、谷中央部では、小川に向かって石垣が築かれ、平坦面を確保していることも判明し、石垣付近では枕木の痕跡も確認しました。



▲ 大久保間歩調査区全景

(4) 大森銀山重要伝統的建造物群保存地区

① 県史跡柳原家地点

調査位置 重伝建地区内の「大森区域」中央付近に位置し、道路西側に東面して立地。

調査期間 平成20年5月7日～平成21年2月16日（現地調査）

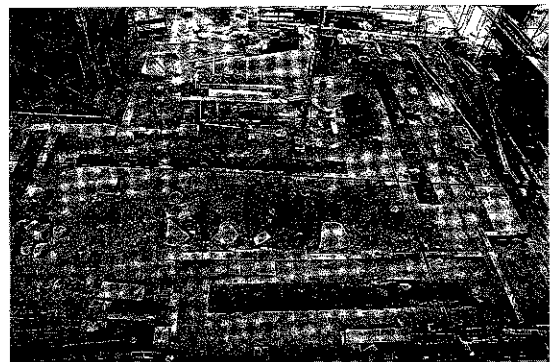
調査目的 平成19年度から着手した建物の保存修理事業に伴う、遺構の内容確認。

概 要

銀山付同心遺宅の保存修理工事に伴い、建物の来歴、土地利用の変遷を確認するために調査を行いました。

調査の結果、現在の建物の下層で、寛政12（1800）年の大火の痕跡と考えられる炭層を検出し、建物は大火後の建築であることが明らかとなりました。この炭層内からは壁土や瓦も出土しており、大火によって焼失した建物はすでに瓦葺きだったと推測されます。

また、台所部分の床下では土間となるタタキ面が検出され、台所が改築されていることも判明しました。さらに、大火層より下層でも現在の建物とほぼ平行に並ぶ礎石や整地面が検出され、大火で焼失した建物の建築以前にも建物が建っていたことが明らかとなりました。



▲ 柳原家調査区全景

②国史跡渡邊家地点

調査位置 重伝建地区の「銀山区域」北端に位置し、道路東側に西面して立地。

調査期間 平成20年10月16日～平成21年3月31日（現地調査）

調査目的 平成20年度から着手した建物の保存修理に伴う、遺構の内容確認。

概要

銀山付地役人遺宅の保存修理工事に伴い、建物の来歴、土地利用の変遷を確認するために調査を行いました。

調査の結果、風呂場では明治期の五右衛門風呂の遺構が見つかり、その下層からは便槽と思われる土坑を検出しました。また、台所では明治期と考えられる石敷きの下層から排水のための石樋が見つかりました。さらに、台所タタキの下層からは土間面等が検出され、現在の建物以前にも建物が存在していたことが明らかとなりました。

この他、建物の中央及び南北端で、地鎮のためと考えられる土坑を検出し、墨書した木箱に入れられた鉄製品などが出土しています。



▲ 渡邊家調査

③その他

調査位置 重伝建地区内の各所

調査期間 平成20年6月25日～平成21年3月24日（現地調査）

調査目的 主に一般住宅の小型合併浄化槽埋設工事に伴う、遺構の有無及び内容確認。

概要

平成20年度中に浄化槽埋設等の工事に伴う立会を12件実施しました。小型合併浄化槽の埋設によるものが多く、面積が10㎡以下の調査がほとんどでした。遺構を確認した地点については調査概報で報告していますが、いずれの地点においても町並みの復元、地下遺構の把握について多くの資料が得られました。中でも、長見家地点、清水家地点などでは17世紀初頭の遺構が検出され、大森の町屋形成を考える貴重な資料が得られました。



▲ 大森会館浄化槽調査

石造物調査の概要

石造物調査は石見銀山遺跡の歴史的過程を実態に即してより詳細に明らかにし、鉱山遺跡としての特性を把握することを目的に実施しています。石造物には多種多様なものがありますが、現在は鉱山の盛衰が直接的に反映されると考えられる墓石を重点的に調査しています。

(1) 平成20年度石造物調査指導会

実施日 平成20年6月2日

場 所 温泉津コミュニティーセンター、現地

出席者 田中義昭氏（鳥根県文化財保護審議会委員）、池上悟氏（立正大学教授）、（故）宮本徳昭氏、大田市・鳥根県教育委員会職員

概 要

平成19年度の調査成果の確認及び平成20年度の調査内容の検討を行いました。平成20年度は温泉津地区で特徴的な岩窟墓地が確認できる西念寺周辺の調査を引き続き実施することとしました。

(2) 温泉津地区西念寺の悉皆調査

実施日 平成20年8月26～28日

場 所 温泉津コミュニティーセンター、現地

出席者 田中義昭氏、池上悟氏、立正大学院生、大田市・鳥根県教育委員会職員

概 要

西念寺境内にある石造物及び温泉津から沖泊に向かう街道にある岩窟墓地を悉皆調査しました。調査成果としては、搬入された花崗岩製石造物（元禄期）を確認し、6つの岩窟墓地の実態を解明し、各岩窟墓地が親族者集団により形成されていることが明らかとなりました。また、最終日には石造物調査指導会を開催し、調査結果の確認及び補足調査の内容について検討を行い、補足調査は11月まで数日間行いました。



▲ 石造物調査（温泉津西念寺地区）

(3) 平成20年度調査報告書作成

概 要

悉皆調査した大田市温泉津町西念寺墓地、平成19年度に調査した大田市大森町安原谷の安原備中墓、平成13年度に調査した飯石郡飯南町所在の大光寺墓地の調査成果を掲載しました。

その他の調査の概要

(1) 調査内容：鉱山関連調査の調査指導

実施日 平成20年4月23日～25日

場 所 石見銀山世界遺産センター、現地

指導者 井澤英二氏（九州大学名誉教授）、鈴木一義氏（独立行政法人国立科学博物館科学技術史グループグループ長）

概 要

間歩、鉱山技術、製錬技術の解明などについて調査指導を受けました。

(2) 調査内容：考古学的調査の調査指導

実施日 平成20年12月10日～11日

場 所 石見銀山世界遺産センター、現地

指導者 小池伸彦氏（独立行政法人奈良文化財研究所企画調整室長）

概 要

鉱山遺跡や製錬関連遺跡の調査事例などについて調査指導を受けました。

(3) 調査内容：考古学的調査の調査指導

実施日 平成21年2月18日

場 所 石見銀山世界遺産センター、現地

指導者 村上勇氏（三次市立奥田元宋小由女美術館館長）

概 要

世界遺産センターの展示内容、石見銀山遺跡から出土した陶磁器の同定、石見銀山に関連する工芸品等について指導を受けました。石見銀山遺跡の発掘調査では戦国時代から江戸時代までの陶磁器の変遷や肥前系陶器の導入時期を考える上で重要な遺跡と考えられます。海外調査の必要性とともに、大内氏関連資料（山口県）、毛利氏関連資料（広島県）、益田氏関連資料（益田市）など周辺地域の調査の必要性が指摘されました。

2. 歴史・民俗学的調査研究

世界遺産としての価値を高める物証を充実させるため、散逸の危機にある地元史料を主対象に文献調査を実施しています。その際、人権・同和問題の解決を見据えた取り組みとするべく、地図・地名、人権・同和問題調査を通じて問題への理解促進と意識の向上を図りました。調査成果の活用方法については、現在検討を行っています。

文献調査の概要

石見銀山の歴史と国内外におけるその意義を明らかにするため、石見銀山と石見銀を含む日本銀に関する文献・史料の所在や内容を学術的に調査しています。史料や文献の検索・閲覧・複写・写真撮影をし、必要に応じて目録作成や解説を行い保存・活用することとしています。

(1) 平成20年度第1回文献調査指導会

実施日 平成20年6月7日(土)

場 所 古代出雲歴史博物館2階会議室(出雲市大社町)

出席者 文献調査員及び世界遺産室職員

概 要

平成20年度調査の計画について協議し、指導を受けました。

まず、下記に挙げた調査中の文書について、今後の作業を検討しました。

阿部家壁・襖下張り文書(松場氏蔵)、阿部家(米子、阿部氏蔵)、上野利治家近代文書・柵原事業所近代図面類、熊谷家、旧順勝寺、高橋家、野澤家、三谷家、泉家・藤間家、多田家、中島家、中村家

今後調査すべき文書については次のとおり提案がありました。

銀山附地役人の藤井家・柳原家、温泉津町関係史料、西田渡利家、森岡家(松江)

古写真類

文献調査への意見は以下のとおりでした。

全体像をつかむ文書と詳細を見る文書と区別するため、調査対象に重要度から優先順位をつけた方がよい。解説予定の文書は成果公開をはかる。

今後の刊行物としては、史料集であれば基本史料となる石見銀山治府要集(山口県立公文書館蔵)、銀山方役所日記(中村家文書)、高橋家文書や広田家文書などが対象に挙げられました。目録では、史料の保管状況を含め目録に掲載しなければならないとの意見がありました。

(2) 平成20年度第2回文献調査指導会

実施日 平成20年7月28日(月)

場 所 島根県第3分庁舎3階理化学分析室(松江市殿町)

出席者 文献調査員及び世界遺産室職員

概 要

文献調査にかかる人権・同和問題への取り組みについて協議し、指導を受けました。

石見銀山遺跡とその周辺は、近世石見国の幕府領支配の中心地だった歴史をもつ地域です。文献調査の対象とする史料についても、身分制度に関わるものは人権に配慮した取り扱いが求められているところです。

こうした現状をふまえつつ、文献調査での史料取り扱いやその方針について活発な意見交換が行われました。文献調査の方針については、方針を確立することが重要だとの意見が出されました。

(3) 平成20年度第3回文献調査指導会

実施日 平成21年2月21日(土)

場 所 石見銀山世界遺産センター(大田市大森町)

出席者 文献調査員・客員研究員等及び県市関係職員

概 要

テーマ別調査研究業務の平成20年度第2回客員共同検討会に併せて開催しました。今回はテーマ別調査研究業務の客員研究員を交え、文献調査にかかる人権・同和問題への取り組みや史料取り扱いについて協議し、指導を受けました。

史料の取り扱いについては、他地域の参考事例とそれに基づく意見がありました。文献調査の方針については、関係先との調整について指摘を受けたほか、時間をかけて理解を得てゆくべきとの意見がありました。

(4) 史料調査

①三谷家文書調査

調査日 平成20年6月9日(月)

場 所 三谷家(福岡県大牟田市)

調査者 仲野義文氏(石見銀山資料館館長)・藤原雄高氏(石見銀山資料館学芸員)の各文献調査員及び世界遺産室職員

概 要

石見銀山関連史料を含む三谷家文書について、写真撮影や目録作成を行いました。

昨年度の調査では、新出の中世史料4点・幕末期の史料2点を確認しています。毛利氏支配時期の三谷氏は佐毘売山神社の神宮寺と関わりがあったと推測され、近世には波根東村へ移って屋号を増屋とし、長福寺(大田市波根町)を菩提寺としていたことが明らかになりました。毛利元就より下賜されたと伝えられる孔雀文陣羽織についても、注目されます。

今年度の調査では、近世から近代の史料30点を新たに確認しました。以前に新聞紙上で紹介された、五百羅漢造立にかかる近世史料1点も含んでいます。

三谷家文書等は、調査終了後に石見銀山資料館へ寄託されています。同館では、これらを陳列する展覧会「戦国大名毛利氏と山神宮」が平成20年夏に開催されました。

②温泉津町誌編纂関連史料調査

調査日 平成20年7月15日(火)・8月4日(月)～6日(水)・9月8日(月)～10日(水)

場所 大田市役所温泉津支所(大田市温泉津町)

調査者 仲野義文氏・藤原雄高氏の各文献調査員及び世界遺産室職員

概要

温泉津町誌編纂関連史料の所在確認及び目録との照合を行いました。また、問屋を営んでいた木津屋文書について、写真撮影や目録作成を行いました。

木津屋文書については、かつて『温泉津町誌』編纂の際に目録が作成されています。この目録に掲載されている内容と史料原本とを照合し、相互に確認しました。今回の調査では目録非掲載の近世史料も相当数あることが判明したため、これらを分類・整理しながら新たに目録を作成し、適宜写真撮影も行っています。現在、近世を主に文書全体の9割まで目録を作成し、約300点(袋単位)の史料を確認しました。

地図・地名、人権・同和問題調査の概要

石見銀山遺跡とその周辺は、近世石見国の幕府領支配の中心地だった歴史をもつ地域です。江戸幕府の直轄領における支配機構上、この地域でも差別された人々が幕府との関係において独自の役割を担っていたことが明らかにされつつあります。しかし、当時の身分制度やその後の変遷が、現在の人権・同和問題へ大きく影響を及ぼしていることは言うまでもなく、人権に充分配慮したうえでその理解を深めてゆくことが求められています。

石見銀山に関わる調査研究に際しては、ユネスコの基本理念である平和と人権尊重の精神に則り行われるべきであることを踏まえ、今後の歴史的事実の解明が人権・同和問題の解決を見据えた取り組みとなるよう、人権・同和問題への理解促進と意識の向上を図る必要があります。そのため、外部有識者による研修会を開催するとともに、関連施設への研修、見学を行いました。

(1) 第1回人権・同和問題調査にかかる調査指導会

実施日 平成21年2月4日(水)

場所 鳥根県第2分庁舎人権啓発推進センター研修室(松江市殿町)

講師 松原高廣氏(石見銀山遺跡に関わる人権・同和問題協議会委員)

概要

鳥根県下での同和問題の歴史について、石見銀山に関わる部分を中心に担当職員が報告し、講師より講評をいただきました。

講師からは、差別の原因は差別される側にあるのではなく、差別意識を強めた権力者や民衆の側から両者の関係を変化させることで生じた、という指摘がありました。調査研究にあたっては、差別された人々が人としての尊厳を守るため差別に対し立ち向かった、尊い営みをふまえて取り組んでゆくことが重要です。

(2) 第2回人権・同和問題調査にかかる調査指導会

実施日 平成21年3月11日(水)

場 所 島根県第2分庁舎人権啓発推進センター研修室(松江市殿町)

講 師 松原高廣氏(石見銀山遺跡に関わる人権・同和問題協議会委員)

概 要

人権・同和問題の解決を見据えて取り組まれた啓発事業の成果に基づき、島根県下での同和問題の歴史の概要について、講師から分かりやすく解説していただきました。当時の社会で独自の役割を担っていた人々が占めた重要な位置についても、今後いっそう理解を深めてゆくことが大切です。

(3) 関連展示施設の見学

①見学日 平成21年3月3日(火)

場 所 堺市立人権ふれあいセンター内^{へのまつ}船松人権歴史館(大阪府堺市)

②見学日 平成21年3月4日(水)

場 所 水平社博物館(奈良県御所市)、奈良県立同和問題関係史料センター(同奈良市)

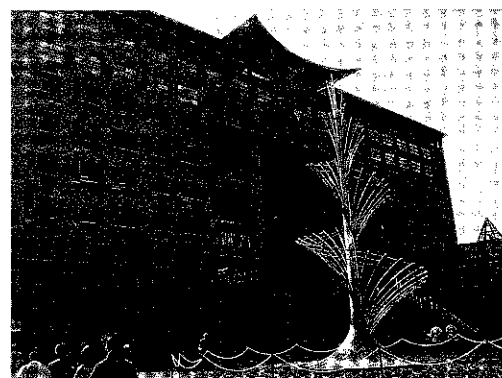
③見学日 平成21年3月17日(火)

場 所 福岡県人権啓発情報センター(福岡県春日市)

見学者 世界遺産室職員

概 要

各施設毎の特色ある展示見学を通じて、差別された人々の歴史や人権・同和問題解決への取り組みについて理解を深めることができました。



◀ 福岡県人権啓発情報センターのあるクローバープラザ

教育普及方法等調査の概要

調査内容 先進事例の調査

調査期間 平成21年3月4日～5日

場 所 山梨県身延町 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

概 要

石見銀山世界遺産センターがフルオープンし、今後、県民や学校に対し、より石見銀山を実感していただくため体験を含めた教育普及活動が必要です。鉱山遺跡の特徴を出した活動を行うため、各地の鉱山遺跡で実施されている活動をホームページ等で情報収集し、先進的な事例を調査しました。

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館では年間全5回の鉱山にまつわる大テーマを設けて講演会や「こども金山探険隊」、「砂金取り大会」などの体験活動を実施しています。「こども金山探険隊」は1泊2日で、金山への登山、製錬体験を行っています。また、「砂金取り大会」は首都圏の大学や高校と連携し、年間上位ランキング等を公表しています。

3. 自然科学的調査研究

従前の科学調査など自然科学的な調査を一つの体系として整理発展させ、石見銀山遺跡の実態を解明し、より価値を高める調査を行っています。調査の目的は、鉱山技術の復元、遺跡の保存、環境保護等の解明であり、その成果は講演会や鉱山技術体験、現地ガイド、現地公開などで公表します。

考古資料分析調査の概要

調査内容 清水谷製錬所跡の出土品分析

概要

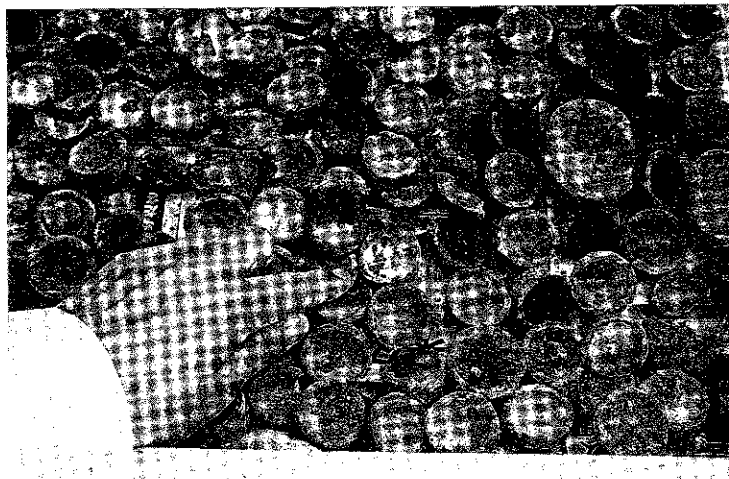
出土品の科学分析により石見銀山遺跡の採掘から製錬に至るまでの技術を解明する目的で調査を実施しています。今年度は整備活用に伴い発掘調査した清水谷製錬所跡の出土品について、科学分析を実施しました。清水谷製錬所跡は明治20年代の短期間操業であったため、当時の技術を解明するには絶好の遺跡です。

①製錬関連遺物（試金用の骨灰皿）

分析・指導 村上隆氏（京都国立博物館学芸部保存修理指導室長）

概要

明治期の小型皿状容器（径4cm、高さ3cm程度）が数千個体出土しています。一部を科学分析したところ、鉛を使用したキューベル（骨灰皿）であることが確認されました。これらは明治期に銀鉱石の品位分析を行った際に使用された可能性が高く、近代化学分析の具体的様子を明らかにできました。



▲ 数千個も出土した「キューベル」

②建築材関連遺物（煉瓦の胎土分析）

分析 島根県産業技術センター

内容 X線回折、蛍光X線による定性分析、耐火度測定、吸水率測定

概要

鳥根県内でも最古級の煉瓦です。X線回折分析では煉瓦に混入している鉱物を調査し、石英、長石、ムライトなどが普遍的に混入する。特徴的な鉱物としては雲母やヘマタイトが確認されました。蛍光X線分析では煉瓦に含有する化合物の含有率を確認し、個体の色調に連動するように赤褐色のものはFe₂O₃などが多く含まれていました。耐火度測定では1410℃～1520℃と確認でき、吸水率測定では7.87～22.6%と個体によりばらつきがありました。

生物調査の概要

調査内容 陸棲脊椎動物、昆虫類、植物などの生物調査

実施対象 石見銀山遺跡及びその周辺

実施方法 財団法人しまね自然と環境財団（鳥根県立三瓶自然館）に委託し実施

委託期間 平成20年5月26日～平成21年3月31日

概 要

これまで、石見銀山遺跡及び周辺の自然環境について具体的な調査研究が行われていなかったため平成18年度に既存文献や調査から石見銀山遺跡に生息する生物相に関する情報を整理し、平成19年度には生物相の現状を把握し、継続的監視・観察箇所や手法の検討を行いました。

前年度までの検討を踏まえ、平成20年度からは代表的な自然環境を有する地域を対象に生物調査を実施し、年次変化や影響の有無を把握することとしました。平成20年度は継続的監視・観察箇所設定が初年度であり、今後の継続した調査が必要です。なお、平成19年度と比較し、20年度は来訪者の増加などによる生物環境への大きな変化は認められませんでした。

資産保全調査の概要

調査内容 石造物の保存対策の検討

実施日 平成21年3月18日

場 所 石見銀山世界遺産センター、現地

指 導 者 独立行政法人奈良文化財研究所 肥塚隆保氏（埋蔵文化財センター長）、高妻洋成氏（保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎氏（特別研究員）

概 要

石見銀山遺跡に多く存在する石造物の風化度、崩壊状況などを観察・測定し、対応策を検討するため、平成20年度は現状を把握し、今後の調査方針を立てるため指導会を実施しました。保全調査には劣化損傷状態の確認や環境調査の必要性、並行して室内調査・実験を行う必要があるとの指導を受けています。

4. テーマ別調査研究

平成20年度から、「石見銀山遺跡の歴史」と「鉱山の比較」を大きなテーマとし、2～3年を周期とする共同調査研究を始めました。この研究では、考古学、歴史学、歴史地理学、地質学、鉱山学などの外部研究者に石見銀山客員研究員として参加してもらい、年3回程度の共同検討会議を開催しながら進めています。

石見銀山遺跡の調査研究の概要

(1) 石見銀山遺跡客員共同事前検討会の開催

①石見銀山遺跡客員共同事前検討会遺跡現地調査

調査日 平成20年6月18日(水)

場 所 石見銀山世界遺産センター、市道仙ノ山線眺望点、石銀地区、本谷地区
大森銀山重伝建地区(観世音寺～熊谷家)
温泉津重伝建地区(元湯～廻船問屋屋敷・西念寺周辺)、沖泊

②石見銀山遺跡客員共同事前検討会

実施日 平成20年6月19日(木)

場 所 あすてらす(大田市大田町)

参加者 客員研究員及び調査研究関係者

概 要

石見銀山遺跡の現地を視察するとともに、これまでの調査研究成果を振り返りました。また、「最盛期石見銀山の景観復元」「東アジアの鉱山比較研究」のテーマ別調査研究を始めるにあたって、全体の方向性について各分科会で議論・検討しました。

1. これまでの調査研究

- 1) 目次謙一「石見銀山に関する初期の調査研究～縣市総合調査以前～」
- 2) 守岡正司「石見銀山に関する調査研究～縣市総合調査～」

2. 今年度からの調査研究

- 1) 田原淳史「ICOMOS勧告と登録決議文への対応」
- 2) 椿真治「基礎的調査研究」
①考古学的調査研究 ②歴史学・民俗学的調査研究③自然科学的調査研究
- 3) 椿真治「テーマ別調査研究」

3. テーマ別調査研究

1) 石見銀山遺跡に関する調査研究

最盛期より新しい時代の様相解明の必要性や、考古・文献・自然科学等各分野の基礎データの内容について指摘がありました。

2) 東アジアの鉱山遺跡に関する比較研究

鉱山遺跡データベース作成に向け、調査項目について詳細な検討を行いました。

(2) 平成20年度第1回石見銀山遺跡客員共同検討会の開催

①客員共同検討会遺跡現地調査

調査日 平成20年8月18日(月)～20日(水)・22日(金)

場 所 石見銀山遺跡柵内地区(下河原～坂根口番所跡～龍源寺間歩～清水谷製錬所跡)
鞆ヶ浦、温泉津港、沖泊

②客員共同検討会

実施日 平成20年8月19日(火)・21日(木)

場 所 石見銀山世界遺産センター(大田市大森町)

出席者 客員研究員及び調査研究関係者

概 要

両テーマにかかる3本の報告・コメント・議論を通じ、石見銀山遺跡および他鉱山の調査研究成果を検討しました。また、各テーマ別に分科会を開催し、今後の計画を協議しました。

1. 石見銀山遺跡の概要

- 1) 目次謙一「戦国末から江戸初期の石見銀山」コメント：仁木宏・和田美幸
- 2) 大國晴雄「銀山柵内の復元」コメント：山村亜希
- 3) 守岡正司「他鉱山・遺跡の事例—佐渡金銀山遺跡—」

2. 人権同和問題について

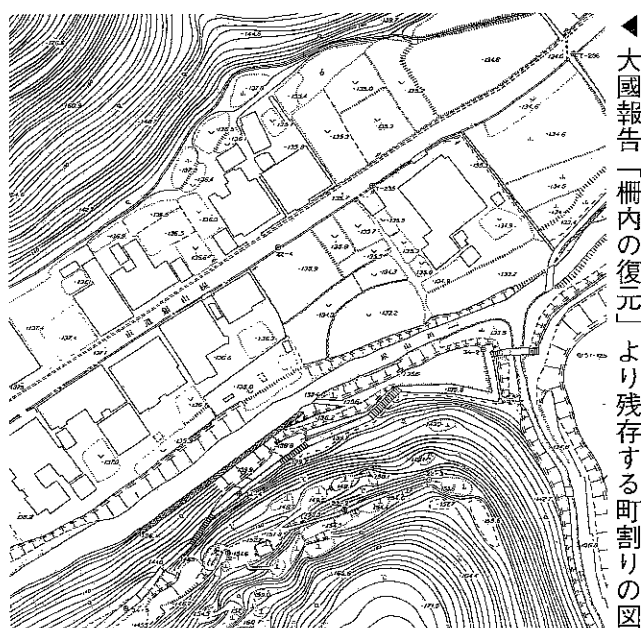
3. テーマ別調査研究

1) 石見銀山遺跡に関する調査研究

考古・文献・自然科学等各分野の基礎データから分布図を作成することとし、幕府支配開始前後での区分や詳細図作成対象地点の選定などを検討しました。

2) 東アジアの鉱山遺跡に関する比較研究

海外鉱山について、関連文献の調査と解題・一覧表作成について協議しました。



(3) 平成20年度第2回石見銀山遺跡客員共同検討会の開催

実施日 平成21年2月21日(土)・22日(日)

場 所 石見銀山世界遺産センター(大田市大森町)

出席者 客員研究員及び調査研究関係者

概 要

両テーマに関する4本の報告により、最盛期石見銀山の景観復元に関する地図史料・遺跡情報・比較事例や、国内他鉱山についての基礎データ等について議論しました。各テーマ別の分科会では、今後の成果報告のあり方や課題について議論・検討しました。

1. 客員共同検討会

- 1) 目次謙一「明治地籍図と地名・町割について」
- 2) 椿真治「町割・道・寺院・墓地の痕跡について」
- 3) 大庭康時「戦国末から江戸初期の都市構造の事例について」
- 4) 守岡正司「国内鉱山について中間報告」

2. 人権同和問題にかかる会議

詳しくは、IV2 歴史・民俗学的調査研究のうち文献調査の概要を参照のこと

3. 清水谷製錬所跡の発掘調査(新川隆)

4. テーマ別調査研究

1) 石見銀山遺跡に関する調査研究

大森町・銀山町復元の要点を議論し、他遺跡との比較対象地も検討しました。

2) 東アジアの鉱山遺跡に関する比較研究

来年度の現地調査や、事業報告書の内容案について協議しました。



▲ 客員共同検討会(石見銀山世界遺産センター)

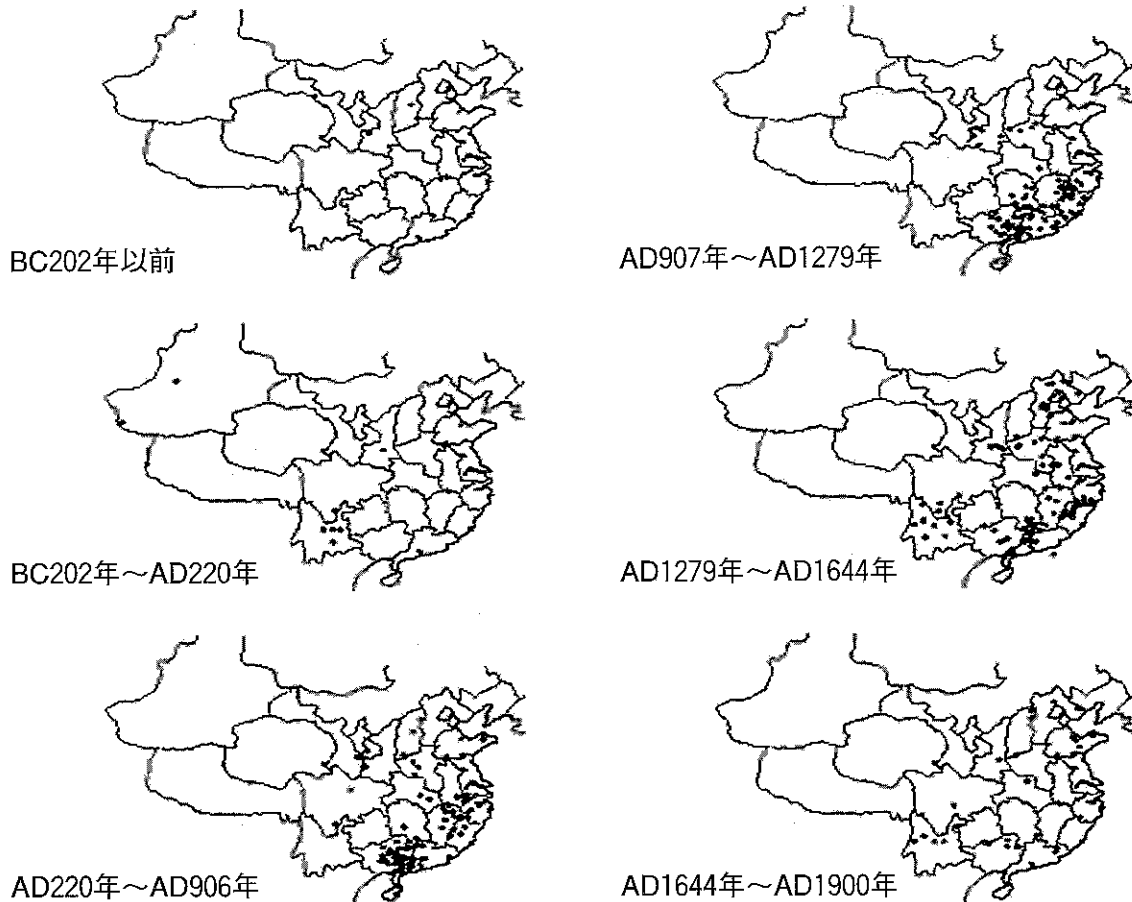
石見銀山遺跡客員研究員 名簿

研究テーマ	氏名	職名
最盛期石見銀山の復元	大庭 康 時	福岡市教育委員会主査
	仁木 宏	大阪市立大学大学院文学研究科准教授
	藤原 雄 高	石見銀山資料館学芸員
	山村 亜 希	愛知県立大学文学部日本文化学科准教授
	和田 美 幸	松江市文化財課嘱託職員
東アジア鉱山比較研究	豊島 久 乃	(独)東京文化財研究所文化遺産国際協力コンソーシアム
	中西 哲 也	九州大学総合研究博物館准教授
	中村 唯 史	島根県立三瓶自然館企画グループリーダー
	吉原 道 夫	白井市立七次台中学校講師

鉱山遺跡比較調査研究の概要

石見銀山遺跡はアジア初の産業遺産として世界遺産に登録されましたが、登録の際、ユネスコ世界遺産委員会から「石見銀山遺跡及び域内の他の鉱山遺跡との比較研究の実施」が要請されました。

3カ年計画では東アジア鉱山遺跡の所在確認を中心に行うこととしました。今年度は中国や日本国内の鉱山遺跡の情報を収集しました。



▲時代別にみた銀鉱山の稼働状況。

Science and Civilization in Chinaより作成資料（中村氏報告）

V. 遺跡の保全・管理業務の概要

資産の経過観察（モニタリング）

概要

世界遺産の構成資産について、定期的かつ体系的な経過観察(モニタリング)を実施しています。「世界遺産条約の履行のための作業指針」・「定期報告説明書」に基づき、情報収集及び記録作成を毎年行い、蓄積した成果について6年毎に保存状況の評価としてまとめ、世界遺産センターを通じて世界遺産委員会に提出することになっています。

定期報告『保全状態の測定にかかる指標』（抄）

調査区分	項	対象	目	具体的記載内容（抜粋）
管理体制	a) 保存管理の組織体制	資産	省略	推薦書記載事項に変更なし
	b) 防火管理体制	登録資産	省略	同上
	c) モニタリング体制	資産・バッファ	省略	同上
資産の管理状況	a) 保存状況	資産	環境問題における影響	(H18~20) 銀山柵内における動植物調査を鳥根県立三瓶自然館に委託して実施。特に公開施設である大久保間歩内のコウモリの生態調査を継続して実施している。
			自然災害における影響	(H19.12) 銀山柵内・山吹城跡において落石あり。H20.11月から対策工事を実施し、H21年度へ継続
			観光による影響	(H20) 5月連休、8月中旬など世界遺産センター駐車場に入れない車が県道に縦列となり、周辺で一時渋滞が発生した。その他大きな問題は発生していない。
			その他（経年劣化毀損等）	公開坑道である龍源寺間歩・大久保間歩について、坑内の乾燥が原因となっているか調査中であるが、岩盤表面の剝離や風化がすすんでいる。
	b) 現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	資産	保護法第80条許可事例	(H18) 3件 (H19) 4件 (H20) 23件
			重伝建地区保存条例第6条許可事項	(H18) 32件 (H19) 31件 (H20) 29件
	c) 修理・整備記録	資産	市事業	【史跡】 (H18) 龍源寺間歩整備活用事業など3件 (H19) 大久保間歩整備活用事業など5件 (H20) 清水谷地区整備活用事業など5件
			民間（補助）事業	【史跡】 (H18) 安養寺経蔵保存修理事業、羅漢寺保存修理事業 (H19) 羅漢寺保存修理事業 (H20) 羅漢寺保存修理事業
				【重伝建・大森銀山地区】 (H18) 修理4件、修景1件 (H19) 修理6件、修景2件 (H20) 修理3件、修景4件 【重伝建・温泉津地区】 (H18) 修理4件、修景1件 (H19) 修理3件、修景3件 (H20) 修理7件、修景1件
	d) 防災施設の整備・修理等	資産		該当なし
e) 防災施設点検結果	資産		【史跡】 代官所跡・表門門長屋火災報知器→異常なし 【重伝建・大森銀山地区】 防災施設 [貯水槽・消火栓等] →異常なし	

資産の管理状況	f) 環境保全	資産	維持管理・整備内容	(H20) 銀山棚内の本谷地区を中心にバトロールを実施
		必要施設	同上	(H20) 保存管理の拠点となる石見銀山世界遺産センターを設置
緩衝地帯の保存管理状況	a) 保存状況	バッファ	環境問題における影響	生物環境調査の実施状況 (サブミナル委託)
			自然災害における影響	落石・水害などの事例 (日時・場所・規模・対応)
			観光による影響	交通関係・ゴミ問題等
			その他 (人的影響等)	具体例記載
b) 現状変更等	バッファ	公共事業	協議→行為実施 (H18.4.1～H19.7.2) 9件 (H19.7.3～H20.3.31) 6件 (H20.4.1～H21.3.31) 5件	
		民間事業	許可申請→行為実施 (H18.4.1～H19.7.2) 17件 (H19.7.3～H20.3.31) 10件 (H20.4.1～H21.3.31) 6件	
保存技術の保存と継承	a) 現地開催の研修	資産		該当なし
	b) 文化財保護法による選定保存技術の選定	資産		該当なし
観光	a) 訪問者数	市内	入り込み客数	(H18) 合計1,246千人 (石見銀山400千人) (H19) 合計1,663千人 (石見銀山714千人) (H20) 合計1,879千人 (石見銀山813千人)
			外国人客数	(H19) 5,820人 (H20) 4,667人 (宿泊客数)
	b) 観光関連産業	市内	宿泊施設数	【大田】 7 【温泉津】 17 【三瓶温泉】 10 【石見銀山】 1 【波根】 5 【仁摩】 8
			宿泊客数	(H19) 【大田】 28,592人 【温泉津】 39,987人 【三瓶温泉】 92,719人 【石見銀山】 869人 【波根】 4,454人 【仁摩】 2,351人 【合計】 168,972人 (H20) 【大田】 34,298人 【温泉津】 35,820人 【三瓶温泉】 114,312人 【石見銀山】 772人 【波根】 3,776人 【仁摩】 1,927人 【合計】 190,905人
			小売業	店数、販売額
			飲食業	事業所数
	c) 観光関連施設	バッファ内	利用者数・料金・時間	省略
		バッファ外	利用者数・料金・時間	省略
d) 観光情報の提供	市内	案内所・観光地図	省略	

Ⅵ. 教育・普及業務の概要

1. 公開講座の開催

センターでは、石見銀山遺跡について、より深く関心を持っていただくことを目的に様々な公開講座を行うこととしています。

県内外の石見銀山遺跡に関する研究者や関係者等をお招きしてご講演していただくものですが、今年度は石見銀山遺跡をはじめとする石造物の調査研究に携わっておられる、来待ストーンの永井館長と、世界遺産センターの展示について指導を受けた、早稲田大学の西脇先生を講師として公開講座を開催しました。

第1回公開講座「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」

日 時) 平成20年1月24日(土) 14:00～15:30

場 所) オリエンテーション室

参加人数) 58名

講 師) 来待ストーン(松江市宍道町)館長 永井 泰氏

演 題) 「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」

内 容) 石見銀山を中心に石見地方に残る石造物(石塔・灯籠・狛犬・建築材など)の特徴を紹介。

石見銀山遺跡では石造物調査を実施していますが、墓石等を中心として実施しています。しかし、石造物は墓石以外にも神社など他にも使用されており、総合的な視点が必要です。そこで、神社の石造物を中心に数多く現地調査を実施しておられる永井館長に、狛犬を中心とした石工や分布などについて丁寧に講演していただきました。



▲ 公開講座「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」

第2回公開講座「銀座と銀貨」

日 時) 平成21年3月14日(土) 14:00~15:30

場 所) オリエンテーション室

参加人数) 59名

講 師) 早稲田大学エクステンションセンター講師 西脇 康氏

演 題) 「銀座と銀貨」

内 容) 西脇康先生は貨幣研究の第一人者で、センター展示室の江戸銀座の模型の監修者です。

講演では、その模型製作時に確認された国立国会図書館古典籍資料室所蔵の「銀座巻物」の解説、江戸銀座がどのような性格と機能をもっていたのか、また、巻物に描かれている銀が発色していることについて解説され、本当の銀貨の色について、豊富な知識からわかりやすく解説していただきました。



▲ 公開講座「銀座と銀貨」

2. 体験学習イベントの開催

センターでは、石見銀山遺跡について、より深く関心を持っていただくことを目的に体験学習等様々な参加型イベントを行うこととしています。

今年度は収蔵体験棟において、地元産福光石の加工や、こなし、選鉱といった製錬作業など石見銀山ゆかりの技術を体験することにより、石見銀山を再発見していただけるイベントを開催しました。また、低融点金属を加工して、石見銀山の象徴とも言える「丁銀」づくりを体験していただきました。

いずれのイベントも、参加者には大変好評でした。今後も、親しみやすく、楽しめるイベントを開催していくこととしています。

福光石の加工体験

日 時) 平成20年11月29日(日) 13:30~16:30

場 所) 収蔵体験棟 体験学習室

講 師) 坪内正史氏

参加人数) 12名

参加費) 無料

内 容) 福光石は戦国時代末から急激に使用されるようになった、地元の温泉津町福光で産出される石材です。その背景には石見銀山の開発による人口増加も考えられ、石造物は石見銀山遺跡を探る新たな視点となります。

福光石は墓石や建築材などに使用され、石見銀山遺跡で一般的な石材です。その福光石の性格、肌ざわりなどを実際に体験してもらうために実施しました。

30×30cm、厚さ15cmの板状の福光石を「げんのう」と「のみ」を使用して自分で考えた図柄を削り出して、レリーフ状の置物を製作しました。



▲ 福光石の加工体験

体験イベント～丁銀をつくってみよう！銀山の製錬作業を体験しよう！

日 時) 平成21年3月14日(日) 10:00～12:00

場 所) 収蔵体験棟 体験学習室

講 師) 石見銀山世界遺産センター職員

参加人数) 低融点金属丁銀づくり 10名、プラ板丁銀づくり 3名、
こなし体験&砂銀採り体験 13名

参加費) 低融点金属丁銀づくり 1,500円、プラ板丁銀づくり 100円、
こなし体験&砂銀採り体験 300円

内 容) 低融点で溶ける金属やプラスチックの板を加工して、石見銀山ゆかりの丁銀を作成しました。

石見銀山遺跡の銀が最終的に何に使用されたかを考えるために第2回公開講座に併せて体験を行いました。石見銀山遺跡の銀は丁銀などに使用されていました。その丁銀とは、どのようなものかを説明した上で、材質は異なりますが、プラスチック板や低融点金属で追体験しました。

また、岩石を“かなめ石”の上で砕く「こなし体験」と、“ゆり盆”で銀粒を採取する「砂銀採り体験」も併せて行い、銀山の製錬作業の一端を実体験しました。



▲ 砂銀採り体験

3. 情報コーナー展示の実施

世界遺産センターの情報コーナーにおいて、石見銀山遺跡について、より深い関心を持っていただくともに、遺跡への理解につながる様々な企画展示を行うこととしています。

今年度は、平成20年末に清水谷製錬所跡で大量に出土したキューベル（骨灰皿）の一部や煉瓦など、発掘調査の成果速報展を開催しました。

また、当センターの役割の一つでもある体験講座の内容を紹介し、多くの皆さんに今後の体験講座への関心を高めていただけるよう、福光石加工体験の参加者が作成された作品と、福光石についてのパネルを展示しました。

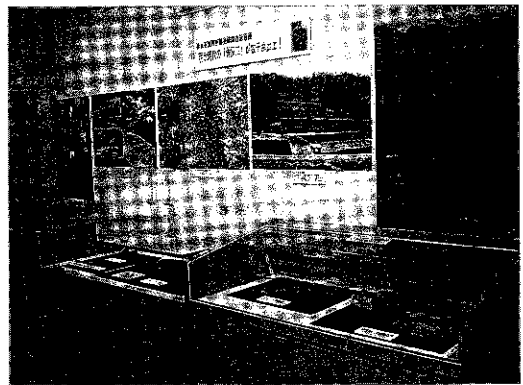
この2つのミニ展示会は、当初は1ヶ月余りの展示を予定していましたが、来訪者から大変好評であり、展示期間を延長しています。

清水谷製錬所跡発掘調査速報展

日時) 平成21年1月19日～平成21年3月31日

内容) 毎年行っている発掘調査の成果をいち早く一般の方に公開しようと速報展を開催しました。今回は、平成20年度に調査した清水谷製錬所跡の発掘調査成果を紹介する展示とし、来館者に見学していただきました。

展示品は出土したキューベル（骨灰皿）や、煉瓦、鉄製品などで、併せて調査時の写真パネルや、製錬所の古写真、復元CGパネルなども展示し、製錬所が操業していた当時の様子が実感できるよう工夫したところです。



▲ 発掘調査速報展

福光石の加工体験作品展

日時) 平成21年1月19日～平成21年3月31日

内容) 平成20年11月29日（土）に開催した福光石の加工体験イベントで体験者が制作された作品を展示し、来訪者に福光石を実感していただきました。

福光石は切り出し、加工した当初は淡い緑色で、内部に含有物もあり、暖かみがあり、見た目にも風情があります。現地の石造物は苔むしていますが、製作当初の風合いを実感してもらうことができました。



▲ 福光石の加工体験作品展

Ⅶ. 石見銀山遺跡関連事業の概要

1. 遺跡整備事業

大森銀山地区重要伝統的建造物群保存修理事業

平成20年度は、大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導を得ながら、地区内で3件の修理、6件の修景を行いました。主な事業は下記のとおりです。

①大森会館土蔵（KeW8）木造二階建棧瓦葺

宮の前にある土蔵。通りに面して主屋が建っており、土蔵はその後背部に位置しています。この通りには、かつて中間長屋が建ち並んでいたと伝わっています。瓦の葺き乱れを原因とする雨漏りが著しく進んで屋根に大きな穴が開き、伴って南側の屋根と壁が大きく崩れていました。修理の内容は、構造材の腐朽箇所の継補や交換、屋根の葺き替えと建具の補修・新調を行いました。

なお、土蔵は土壁の乾燥に時間を要するため、平成19～20年度の2ヶ年事業としました。

②有馬家主屋（SiW16）木造二階建棧瓦葺

新町地区、街道の西側に位置し、市道大森線（旧県道）から銀山川を挟んでよく見えるところに位置しています。平成6年度に修理した際には、大屋根の修理を行いませんでしたが、近年雨漏りが発生し、屋根替えを行いました。

③中島家塀（SyW9）

昭和区、町筋の西側、中市橋のたもとに建っています。伝建地区内の北側、熊谷家住宅から銀山方面へ向けて一方通行になっていますが、中島家の川筋奥にある西性寺へは道路を鋭角に曲がらねばならず中島家と福田家の間は一方通行にできない状況でした。そのため、伝建地区内の一方通行を完結させるため中島家の塀を現況のまま後ろに移設しました。これにより、道路を部分的に拡幅できました。

④渡辺家石垣（MiW10）

宮の前地区、城上神社の北側に位置し、町屋の主屋は街道に面した石垣の上に建っています。平成15年度に主屋を修理した際には、石垣の修景は必要とみませんでした。近年敷地正面の左側部分が迫り出してきたため、石垣の積み直しを行いました。

⑤長見家主屋（KeW32）木造二階建棧瓦葺

駒の足地区、市道大森線（旧県道）沿いに位置します。昭和36年に製材所と事務所が建設されましたが、平成18年9月に製材所は解体されました。残った事務所は屋根の一部に傷みが目立ち始めていましたが、修景を行い住宅として使用することになり、屋根の葺き替え、

外壁の張り替え及び風呂、便所の増築を内容としています。

⑥上田家主屋 (GiE9) 木造平屋建棧瓦葺

銀山地区、街道の東側に位置する町屋。平成4年度に半解体修理を行いました。経年変化により、入口左側の土壁が剥がれていました。これは、土壁内に水がまわり小舞竹が朽ちたためと考えられ、土壁を撤去し小舞下地からやり替えました。

⑦小川家主屋 (SiW5) 木造二階建棧瓦葺

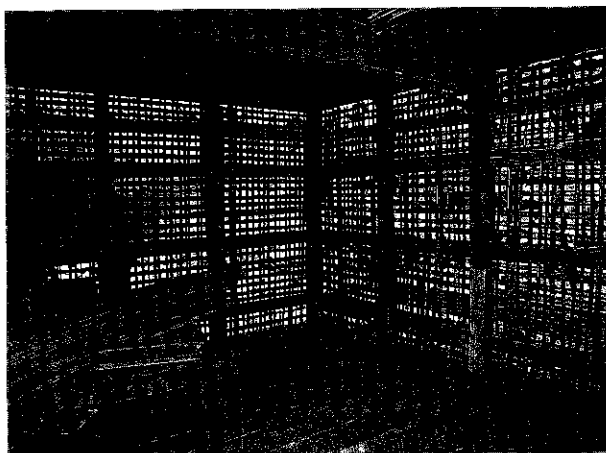
新町地区、街道の西側に位置します。敷地後背部に離れ、岩の上に建つ茶室、付属納屋があり、いずれも雨漏りにより、傷みが進んでいました。今回、住宅として修景を行いました。内容は、腐朽材の取り替え、根継ぎ及び新補を行いました。また、屋根瓦は新瓦で葺き替え、建具は現状の建具を修理し使いましたが、一部は新調しました。

⑧昭和区ゴミステーション (KeE11)

昭和区、市道大森線(旧県道)沿いに位置しています。10年近く前に建築されましたが、近年屋根の傷みが目立ち雨漏りをするようになったため、瓦屋根に葺き替え修景しました。

⑨荒田家塀 (SyW7)

昭和区、旧「下市」と呼ばれる地区にあって、街道の西側に建っています。平成11年度に2階建て離れ部分を半解体修理し、理容店であった当時に復旧した際に板塀を設置しましたが、主屋側の塀はコンクリートブロック塀のままであったため、今回、コンクリートブロック塀を撤去し、板塀として修景しました。



▲ 大森会館土蔵修理状況



▲ 小川家主屋修景状況

温泉津地区重要伝統的建造物群保存修理事業

平成20年度、温泉津地区内では、7軒の修理、1軒の修景を行いました。主な事業は下記のとおりです。

①和田家主屋 稲荷町 (IS-01) 木造二階建瓦葺

稲荷町と本町を分ける十字路の南東側に位置する旧店舗兼住宅。主屋は、間口4間半、奥行約10間で平入、切妻造棧瓦葺総2階建て、主屋背後の中庭を挟んで、切妻造棧瓦葺総2階建ての離れがあります。建築年代を示す史料はありませんが、大正時代初期の建築であると伝わっています。外壁は土中塗り漆喰仕上げで2階の一部分にモルタル洗い出しで洋風な壁面も残っています。主屋の小屋裏は木造のトラス構造になっています。

修理は漆喰壁の補修、木製建具の補修、土台の不陸調整、腐朽材の取替え・継補、構造補強。離れは瓦の葺き替えを行いました。

②大浜家主屋・土蔵 稲荷町 (IS-07) 木造二階建瓦葺

稲荷町の通りに北面する店舗兼住宅。主屋は間口約6間半、奥行約12間半で平入、切妻造棧瓦葺総2階建ての主屋です。正面左側に前庭・応接間があり、屋敷型の建物です。また、土蔵は間口3間半、奥行き2間半です。棟札が保管され、大正12年の建築です。今回の修理で板図が小屋裏より発見されました。

修理は、屋根下地補修と瓦の葺き替え、壁の補修、腐朽部材の交換、木製ガラス戸の調整を行いました。

③宮原家主屋 本町 (HN-12) 木造三階建瓦葺

稲荷町と本町を分ける十字路の北西側に位置する住宅です。現在の主屋は間口約4間半、奥行約6間半です。昭和30年代に主屋右側の「寺道」を拡張するため約半間ほど解体されています。平入、切妻造本2階建ての主屋は、所有者の聞き伝えにより明治時代初期の建築と推測されます。今回の修理では屋根瓦の葺き替えと土中塗り漆喰の大壁の一部を補修しました。

④森山家主屋 湯町 (YN-03) 木造二階建瓦葺

湯町の通りに南面する住宅。間口3間、奥行約4間で、平入、切妻造棧瓦葺本2階建ての主屋です。主屋の建物の建築年代は不明ですが、建ちの低いことや、回り番付であったことなどから明治時代後期と推測されます。

今回の修理では屋根瓦の葺き替え、構造補強、土台の不陸調整、土中塗り仕上げの真壁を補修し、アルミサッシの建具を木製ガラス戸に替えました。

⑤工谷家主屋 寺町 (TW-01) 木造二階建瓦葺

寺町の通りに東面する住宅。間口約3間、奥行約4間で、平入、切妻造棧瓦葺総2階建て

の主屋です。主屋の建物の建築年代は不明ですが、大正時代には和菓子製造販売をしており、それから建物の大きな変更はないとのこと。なお、構造材のほとんどは以前にあった土蔵の材料を転用した部材と推測されます。

今回の修理では屋根瓦の葺き替え、構造補強、土台の不陸調整、土中塗り仕上げの大壁に補修し、アルミサッシの建具を木製ガラス戸に替えました。

⑥山本家主屋 法泉町 (HE-04) 木造二階建瓦葺

法泉町の通りに西面する住宅。間口4間、奥行3間で、平入、切妻造棧瓦葺総2階建て、妻壁は大壁で土中塗り漆喰仕上げの主屋です。主屋の建物の建築年代は不明ですが、発見された板図に「定納証一札」と題された墨書があり、明治27年と書かれていますので、その後と推測されます。

今回の修理では屋根瓦の葺き替え、構造補強、腐朽材の交換、妻壁の補修、アルミサッシの建具を木製ガラス戸に替えました。

⑦多田家廻船問屋墓地 湯町 (YS-07) 土塀

湯町にある恵瑠寺本堂背後の墓地内に存在します。間口約5間、奥行約2間の敷地に瓦葺きの廟があり、正面に版築で造られた漆喰仕上げの土塀があります。墓地には中世から廻船業、問屋業を生業としている「油屋」、その分家である「浜油屋、越後屋」と銘が残っています。

今回の修理では前面にある土塀の風化が激しい入り口部分を版築工法で修理し、他は荒壁で修復し、漆喰で仕上げました。

⑧井上家主屋 湯町 (OW-13) 木造二階建瓦葺

沖浦の県道に南面する住宅。間口2間半、奥行5間で、平入、切妻造棧瓦葺総2階建て、妻壁は真壁で土中塗りの上に板で覆った仕上げの主屋です。主屋の建物の建築年代は昭和20年代で、もともと鍛冶屋を生業としていた建物です。

今回の修景では屋根瓦の葺き替え、庇の復原、腐朽材の交換、妻壁の補修、アルミサッシの建具の外部に木製の格子戸を取り付けました。

大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員名簿

	氏名	住所	区分	任期	備考
1	斎藤英俊	埼玉県	学識経験者	自 H20.3/1 ~ 至 H22.2/28	会長
2	吉岡寛	大森町	地元代表者	同上	副会長
3	小泉和子	東京都	学識経験者	同上	
4	村田信夫	滋賀県	学識経験者	同上	
5	平本映子	松江市	学識経験者	同上	
6	多田房明	仁摩町	学識経験者	同上	
7	河村政経	大森町	地元代表者	同上	
8	山崎光造	温泉津町	地元代表者	同上	
9	河原秀之	温泉津町	地元代表者	自 H20.12/1 ~ 至 H22.11/30	
10	卜部吉博	松江市	鳥根県教育庁 文化財課長	自 H20.3/1 ~ 至 H22.2/28	

史跡整備事業

文化庁国庫補助事業「史跡等総合整備活用推進事業」と「羅漢寺五百羅漢保存修理事業」を行いました。事業内容は史跡地内における整備工事と必要となる測量設計業務委託で、併せて整備工事に伴い必要な箇所を発掘調査を実施しています。

「史跡等総合整備活用推進事業」は、石見銀山遺跡の全体像がわかり、安全に見学できることを目的に、遺跡を結ぶ見学道整備工事や道標・説明板などのサイン施設の設置工事を、鉾山跡の仙ノ山や街道で行いました。

また、石見銀山遺跡のうち代表的な遺跡については、その価値を保存し顕在化する目的で、清水谷製錬所跡整備活用工事や渡辺家住宅保存修理工事などを実施しています。

「羅漢寺五百羅漢保存修理事業」では、明治5年の浜田地震で崩落した中央窟を中心に、風化の著しい岩盤について安全対策工事を実施しました。

これらの整備事業については「石見銀山遺跡整備検討委員会」を設置し、その内容について指導に基づいて実施しており、平成20年度は2回開催しました。

また史跡保存と整備事業に必要な「史跡土地買上げ事業」を並行して進めており、平成20年度は龍昌寺跡地区、下河原地区での土地買上げ事業を行いました。

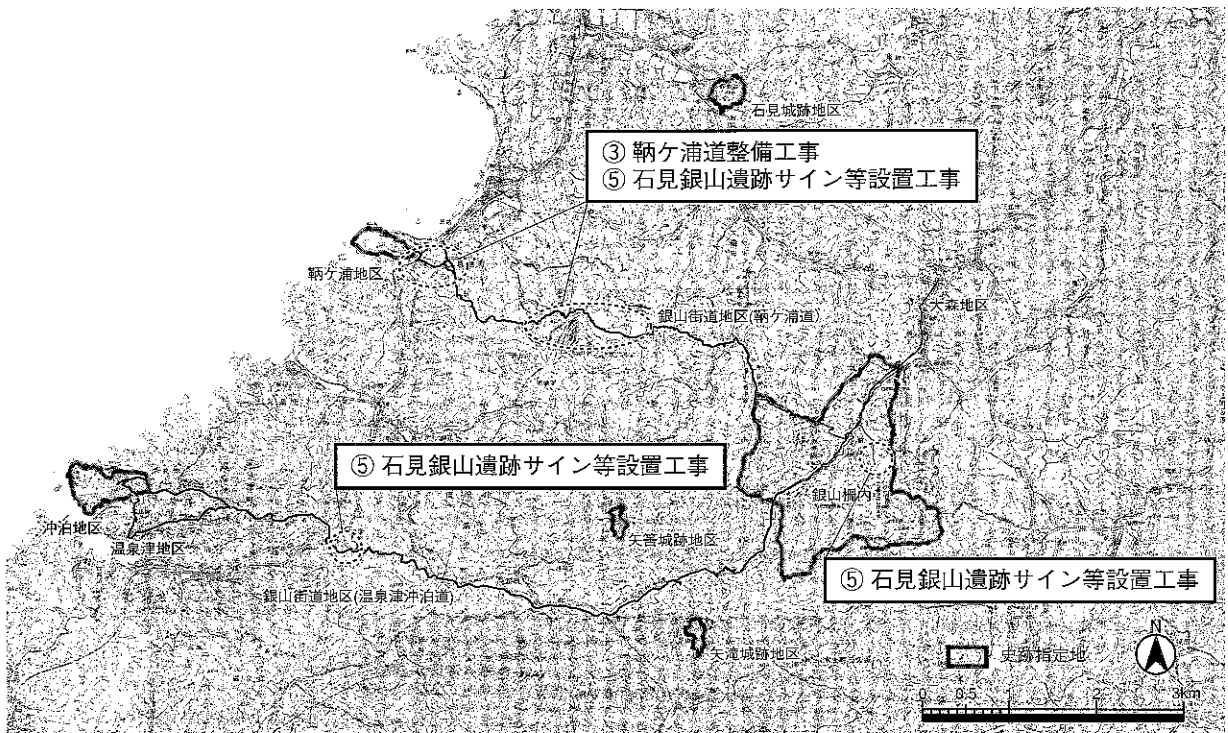
石見銀山遺跡整備検討委員会 委員名簿

	氏名	住所	区分	任期	備考
1	田中 哲雄	京都府	学識経験者	自 H20.9/15~ 至 H22.9/14	委員長
2	大橋 泰夫	松江市	学識経験者	同上	副委員長
3	村上 隆	京都府	学識経験者	同上	
4	村田 信夫	滋賀県	学識経験者	同上	
5	横田 修一郎	松江市	学識経験者	同上	
6	小林 准士	松江市	学識経験者	同上	
7	井上 雅仁	大田市	学識経験者	同上	
8	山下 幸弘	大森町	地元代表者	同上	
9	田中 裕子	仁摩町	地元代表者	同上	
10	中村 仁美	大森町	地元代表者	同上	
11	太田 洋子	三瓶町	地元代表者	同上	

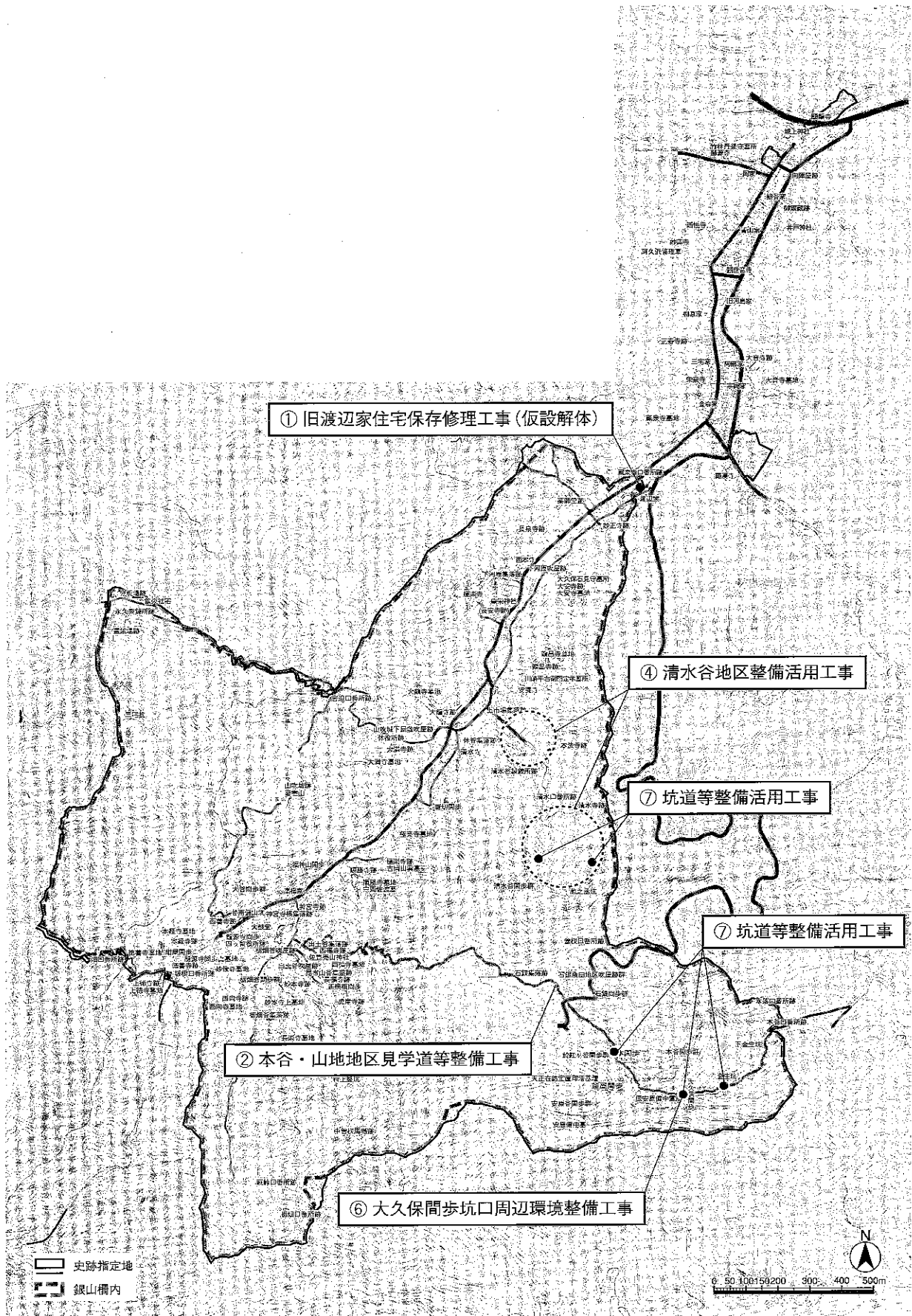
平成20年度事業一覧表

区分	番号	工事名・委託名	概要
工事	①	渡辺家住宅保存修理工事（仮設・解体）	覆屋の設置及び建物の解体調査を実施
	②	本谷・山地地区見学道等整備工事	大久保間歩～石銀集落跡～佐毘売山神社間の見学道整備を実施
	③	鞆ヶ浦道整備工事	鞆ヶ浦道のうち、通行できなかった区間について街道修復を実施
	④	清水谷地区整備活用工事	見学道の整備及び破損した石垣遺構の解体修理、製錬所関連施設の顕在化を実施
	⑤	石見銀山遺跡サイン等設置工事	鞆ヶ浦道及び清水谷地区に誘導等サインを設置
	⑥	大久保間歩坑口周辺環境整備工事	破損した石垣遺構の解体修理、坑口前広場の造成、既設サインの移設を実施
	⑦	坑道等整備活用工事	清水谷地区にある間歩入口に進入防止柵を設置。本間歩及び大久保間歩、金生坑周辺の落石対策工事を実施
委託	①A	石見銀山遺跡整備活用事業設計監理業務委託	②～⑥の設計及び施工監理
	①B	本谷地区落石対策事業測量業務委託	⑦の設計対象地の地形測量
	①C	清水谷地区トロッコ道測量業務委託	平成21年度工事範囲の地形測量
	①D	坑道等整備活用工事調査設計監理業務委託	⑦の調査設計及び施工監理

※表の番号は図の番号と対応する。



柵外工事箇所図



柵内工事箇所図

2. 情報発信事業

石見銀山遺跡が世界遺産に登録されて1周年の記念イベントとして、「石見銀山遺跡世界遺産登録1周年記念事業」と「石州銀展」を開催しました。

石見銀山遺跡世界遺産登録1周年記念事業

石見銀山の世界遺産としての価値や遺跡の全容について、全国的に理解を深めていただくことを目的に、東京、兵庫、千葉、沖縄の全国4会場で記念シンポジウムや講演会などを行いました。

(1) 開催概要

①主催

鳥根県、鳥根県教育委員会、大田市、大田市教育委員会

東京都江戸東京博物館、兵庫県立考古博物館、千葉県立中央博物館、沖縄県立博物館・美術館

②後援

文化庁、朝日新聞社

③内容

「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観」についてのシンポジウム・パネルディスカッション・講演会・座談会

(2) 各会場の概要

①東京会場Part1

日 時：平成20年7月19日(土) 13:30～16:30

場 所：東京都江戸東京博物館 1階 大ホール (東京都墨田区)

参加者：約400名

記念シンポジウム「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観について」

◆基調講演「世界経済史の中の石見銀山」

講師 脇田 晴子 氏 (石川県立博物館館長)

◆パネルディスカッション

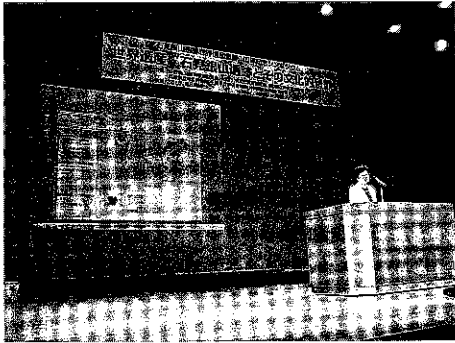
パネリスト 脇田 晴子 氏

村井 章介 氏 (東京大学大学院教授)

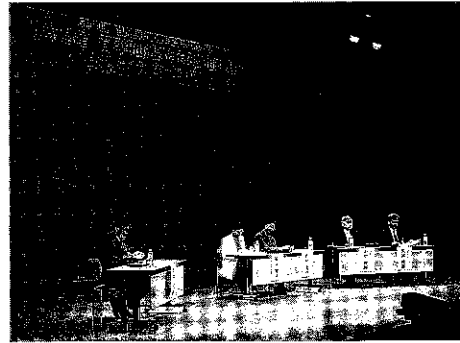
中村 俊郎 氏 (石見銀山資料館理事長)

大國 晴雄 氏 (大田市教育委員会教育部長)

コーディネーター 毛利 和雄 氏 (NHK解説委員)



▲ 脇田晴子氏による基調講演



▲ パネルディスカッション

②東京会場Part2

日 時：平成20年 8 月 2 日(土) 14:00～15:30

場 所：東京都江戸東京博物館 1階 会議室（東京都墨田区）

参加者：約110名

◆記念講演会「石見銀山遺跡の調査から一姿を現した鉾山町一」

講師 守岡 正司（鳥根県教育庁文化財課世界遺産室専門研究員）

③兵庫会場

日 時：平成20年10月 4 日(土) 13:00～15:30

場 所：兵庫県立考古博物館 1階 講堂（兵庫県加古郡播磨町）

参加者：約120名

記念座談会「鉾山の技と町並みー石見と生野の銀山」

◆基調講演「石見にみる中近世の銀山」

講 師 目次 謙一（鳥根県教育庁文化財課世界遺産室主任研究員）

◆座談会

話し手 足立 裕司 氏（神戸大学教授）

目次 謙一

聞き手 石野 博信 氏（兵庫県立考古博物館館長）

④千葉会場

日 時：平成20年11月23日(日) 13:30～16:00

場 所：千葉県立中央博物館 1階 講堂（千葉市中央区）

参加者：約100名

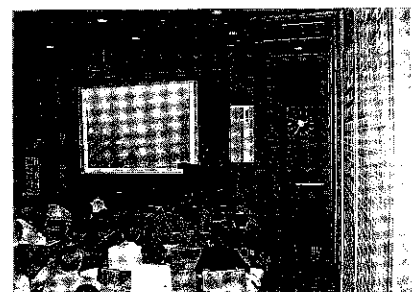
記念講演会「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観について」

◆講演 1 「世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観」

講師 田原 淳史（鳥根県教育庁文化財課世界遺産室文化財保護主任）

◆講演 2 「産業遺産としての石見銀山」

講師 鈴木 一義 氏（独立行政法人国立科学博物館理工学研究部科学技術史グループグループ長）



▲ 千葉講演会

⑤沖縄会場

日 時：平成21年1月17日(土) 14:00～16:30

場 所：沖縄県立博物館・美術館 3階 講堂（沖縄県那覇市）

参加者：約100名

記念講演会・対談「銀が繋ぐ二つの世界遺産ー琉球と石見ー」

◆基調講演「石見銀山遺跡とその文化的景観」

講 師 仲野 義文 氏（石見銀山資料館館長）

◆対談「16世紀～17世紀における東アジア世界の交易と琉球、石見」

対談者 仲野 義文 氏（石見銀山資料館館長）

真栄平房昭 氏（神戸女学院大学教授）

石州銀展

石見銀山で産出された銀で作られた貨幣（貨幣の収集者は「古丁銀」と呼んでいます）を多くの方に見ていただくとの企画です。

会場では、これまでに島根県が購入したものや、個人の収集家によって集められ、島根県が寄託を受けることになった古丁銀に加え、重さ約30kgの現在の銀インゴットなども展示されました。

また、7月5日には、学芸員による展示解説や、キーホルダー作り、銀のインゴットに触るといったワークショップなども行われるなど、多くの方に銀を見て触れて、楽しんでいただきました。

①主催：島根県教育委員会・島根県立古代出雲歴史博物館

②会期：平成20年5月31日(土)～7月6日(日)

③会場：島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室



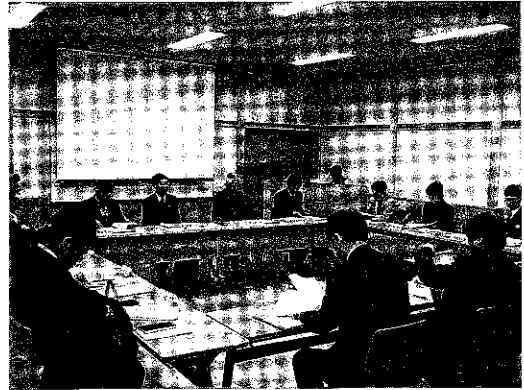
▲ 石州銀展

3. その他の事業

石見銀山遺跡調査活用委員会

平成20年12月19日に、世界遺産センターで第2回石見銀山遺跡調査活用委員会が開催されました。当日は15名の委員全員に出席いただき、会議前には10月にオープンしたばかりの展示室の観覧も行いました。

会議では、事務局から世界遺産センターの運営組織などの新たな体制の説明の後、議題である「調査研究」「保存管理」「整備活用」などの分野について、委員から助言や意見をいただきました。また、国の文化審議会世界遺産特別委員会が示した「佐渡金銀山と石見銀山との組み合わせ」について、文化庁記念物課の本中眞主任文化財調査官から、これまでの経緯や課題についての説明がありました。



▲ 調査活用委員会

石見銀山遺跡調査活用委員会 委員名簿

氏名	職名	専門分野	備考
井上 雅仁	島根県立三瓶自然館学芸グループリーダー	自然環境	
大橋 泰夫	島根大学法文学部教授	考古学	
勝部 昭	元・島根県教育次長	文化財行政	委員長職務代理者
黒田 乃生	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授	文化的景観	
小林 准士	島根大学法文学部准教授	近世思想史	
高安 克己	島根大学副学長	地質学	
田中 裕子	オフィスタナカ代表	地元有識者	
中塩 弘	DOWAホールディングス(株)執行役員	鉱業	
仲野 義文	石見銀山資料館館長	近世史	
中村 俊郎	中村ブレイス(株)代表取締役社長	地元有識者	
西村 幸夫	東京大学先端科学技術研究センター教授	都市計画	
林 秀司	島根県立大学准教授	人文地理	
原田 洋一郎	東京都立産業技術高等専門学校准教授	鉱山史	
町田 章	前・奈良文化財研究所所長	考古学	委員長
村上 隆	京都国立博物館学芸部保存修理指導室長	歴史材料科学	

※任期：平成20年1月7日～平成23年1月6日（中塩委員は20年6月26日～）

石見銀山遺跡保存管理委員会

平成20年5月29日に、松江市で第1回石見銀山遺跡保存管理委員会が開催されました。

この委員会は、石見銀山遺跡を適切に保存管理し、その価値を永く後世に伝えていくことを目的として、鳥根県と大田市が共同で設置しました。世界遺産登録推薦書の中でも、その設置を謳っていたものです。

委員会では、遺跡の保存管理に関連する諸事業の総合調整や遺跡の保存管理計画の進行管理等を行います。委員は、県の関係部局の次長6名及び市の関係部局の部長5名の合計11名ですが、当日は初めての開催ということもあり、県の藤原義光教育長も出席し、会議の冒頭で県市の連携の重要性等についてあいさつしました。

その後、委員長である県の稲垣教育次長の進行により議事に移り、最初に、保存管理委員会の設置目的及び所掌事務、遺跡の保存管理における県と市の役割分担等を改めて確認しました。

次に、石見銀山遺跡の保存管理についてユネスコ世界遺産委員会やイコモスから勧告された事項や、遺跡の保存管理及び整備活用における具体的な課題の説明がありました。

さらに、農林・土木・観光・文化財等の分野で今年度に県及び市で実施される石見銀山関連の諸事業に係る説明及び質疑が行われました。中でも、遺跡内における新たな交通システムの構築については、多くの意見が交わされました。

今後は世界遺産に義務づけられている資産の経過観察（モニタリング）等も取り上げていく予定です。



▲ 保存管理委員会

石見銀山遺跡保存管理委員会 委員名簿

所属	部局	職	氏名
鳥根県	地域振興部	次長	今岡輝夫
	環境生活部	次長	升田優
	農林水産部	次長（事務）	石垣英司
	商工労働部	次長	細木裕二
	土木部	次長（事務）	原仁史
	教育庁	教育次長（事務）	稲垣庸
大田市	総務部	部長	渡邊誠
	産業振興部	部長	和田和夫
	建設部	部長	大野晃
	上下水道部	部長	岩谷正行
	教育委員会	教育部長	大國晴雄

※第1回委員会開催時

石見銀山協働会議

平成17年6月26日、世界遺産登録を目指す石見銀山遺跡を官民協働により保全・活用していくための方策を検討するため、公募による約200名の市民プランナーと島根県・大田市の関係課職員により石見銀山協働会議が組織されました。

平成17年度において、「全体会」を4回、「保全」「発信」「受入」「活用」の分科会がそれぞれ15～16回のワークショップを実施し、平成18年3月、今後の石見銀山における取り組みの方向性を示した「石見銀山行動計画」を策定しました。

平成18年度以降は、「石見銀山行動計画」に基づいた各種事業を実施し、平成20年度は下記の事業を行いました。

(1) 「保存管理」

①保全活動体制整備事業

「石見銀山維持保全活動連絡会議」において「第8回クリーン銀山」を実施しました。

日 時：平成20年7月6日(日) 8:00～10:30

場 所：銀山公園・遊歩道（大森）、沖泊（温泉津）、鞆ヶ浦（仁摩）

参加者：160人



▲ クリーン銀山

②石見銀山ルール策定・普及事業

平成18年度に大森町自治会協議会と市により「石見銀山ルール検討委員会」を設置しました。平成20年度は主に看板や商品陳列といった「大森町内における出店マナー」について検討し、平成21年3月7日(土)に開催された「大森町町民集会」で合意形成されました。以降、大森町自治会協議会が出店マナーのマネジメント組織となり、穏やかさと賑わいの両立を図っていくこととしています。

検討委員会：平成20年6月19日、7月30日、8月27日、12月4日、平成21年1月23日

町民集会：平成21年3月7日

(2) 石見銀山基金

「石見銀山行動計画」で提案された「保存管理基金」の設立に向けて、平成19年7月20日に「石見銀山協働基金設立準備委員会」を設置し、検討作業を行い、平成20年2月28日に「石見銀山基金募金委員会」が設立され、寄附の呼びかけ、受付を始めました。

理事会：平成19年6月18日、8月12日

幹事会：平成19年4月16日、6月2日、10月9日、11月14日、平成20年2月13日

【積立額】

(単位：円)

区 分	H19	H20	合 計
民 間 (募金)	3,002,750 (件数：12)	37,823,229 (件数：466)	40,825,979 (件数：478)
行 政	5,997,250	26,677,771	32,675,021
大田市	5,997,250	25,176,771	31,174,021
島根県		1,501,000	1,501,000
合 計	9,000,000	64,501,000	73,501,000

(3) 「情報発信」

「石見銀山協働会議」全体会の開催

石見銀山行動計画の進行管理を踏まえた現状報告を行い、今後の課題整理をするため「第7回石見銀山協働会議全体会」を開催しました。

日 時：平成21年3月22日（日）13:00～17:00

会 場：大田商工会議所

講 師：西村幸夫氏（東京大学先端科学技術研究センター教授）

参加者：約70名



▲ 分散会の様子

(4)「受入」

緊急受入対策事業

狭い町中での混雑を防ぐため、平成19年度から観光車両は石見銀山遺跡から2 km離れた石見銀山世界遺産センターに車を駐車し、路線バスにて大森町内に入る「パーク&ライド」を実施しました。

平成20年10月からは「パーク&ウォーク」とし、銀山地区内は観光車両の乗り入れを止め、歩く観光を実施しました。また、「パーク&ウォーク」の実施にあたり、平成19年度に引き続き地元住民により交通整理と観光案内にあたる「おたすけ会」を結成し、対応しました。

大久保間歩一般（限定）公開

平成19年度の『実験公開』の結果を踏まえ、平成20年4月26日から開始した公開ツアーは、天候にも恵まれ年度内の催行日が117日、ツアー実施回数が444回（催行率約95%）に及び、参加者は約7,250人となりました。

地域別参加者数のベスト・スリーは、最も多かった中国地方に続いて近畿地方が多く、3番目に多かったのは京浜地区（東京、神奈川、山梨）の方々でした。年間を通して、参加者の多くは壮年以上の方ですが、夏休み等の長期休暇には青年のグループや小学生を連れた家族も多く見られました。

①一般（限定）公開日：3月～11月の週3日（金、土、日）と祝日

（12月～2月末日までは休止）

午前と午後にそれぞれ2回（計4回）のツアー

②ツアー定員：1回20名以内

③事前申込先：(株)石見観光 大田営業所内 大久保間歩予約センター

電話 0854-84-0750 FAX 0854-84-0751

HP <http://www.iwami.or.jp/ginzan>



▲ 大久保間歩一般公開の様子

VII. 職員及び運営スタッフ

(平成19年度)

■石見銀山世界遺産センター

【大田市】

田中純一（石見銀山課長） 遠藤浩巳（課長補佐・遺跡整備係長）
西村崇司（拠点施設係長） 中田健一（主任） 大門 克典（同）
井野裕子（臨時職員 案内窓口担当） 山藤かおり（同） 石橋富士子（同）
波多野加奈（同）

■発掘調査事務所

新川 隆（調査補助員） 尾村 勝（同） 松尾賢二（同） 湯川 登（補助員）
高村玲子（遺物整理員） 井上伸子（同） 浅野美貴（同）

■総務部石見銀山課・教育委員会

知野見清二（総務部長） 小川和邦（教育長） 大國晴雄（教育部長）
田中純一（石見銀山課長） 遠藤浩巳（課長補佐・遺跡整備係長）
西村崇司（拠点施設係長） 長嶺康典（遺跡調査係長）
林 泰州（町並み保存係長・町並み交流センター長） 竹下 健（主任）
中田健一（同） 大門克典（同） 今田善寿（同） 三谷岳史（副主任）
瀧橋洋祐（主事） 松浦 満（同）
山崎亜紀（臨時職員）
青木 悟（鳥根県地域振興部地域政策課地域振興室主任・大田市駐在）

(平成20年度)

■石見銀山世界遺産センター

【大田市】

小野康司（石見銀山課長） 遠藤浩巳（課長補佐・遺跡整備係長）
西村崇司（拠点施設係長） 長嶺康典（遺跡調査係長）
中田健一（主任） 楫 隆宏（同） 青木俊介（主事）
井野裕子（嘱託職員 案内窓口担当） 山藤かおり（同） 石橋富士子（同）
加藤真貴（同）
湯川 登（嘱託職員 大久保間歩管理員）
森山のどか（臨時職員 案内窓口担当） 海塚千明（臨時職員 事務補助）
曾我冴美（パート 案内窓口担当） 白枝智子（同） 景山浩子（同） 川戸智子（同）
山根弥生（同） 山崎亜紀（同） 中村一子（同） 向田直美（同） 波多野加奈（同）
新川 隆（調査補助員） 尾村 勝（同） 松尾賢二（同）
高村玲子（遺物整理員） 井上伸子（同） 浅野美貴（同） 松原絵麻（同）

【島根県】

椿 真治（島根県教育庁文化財課世界遺産室専門研究員・大田市駐在）
守岡正司（同）
目次謙一（島根県教育庁文化財課世界遺産室主任研究員・大田市駐在）
引野佳幸（島根県教育庁文化財課世界遺産室企画員・大田市駐在）
中木紗友美（島根県教育庁文化財課世界遺産室嘱託員・大田市駐在）

■大田市教育委員会 教育部 石見銀山課

小川和邦（教育長） 大國晴雄（教育部長）
小野康司（石見銀山課長・石見銀山世界遺産センター長）
遠藤浩巳（課長補佐・遺跡整備係長）
林 泰州（課長補佐・町並み保存係長・町並み交流センター長）
西村崇司（拠点施設係長） 長嶺康典（遺跡調査係長）
中田健一（主任） 今田善寿（同） 楫 隆宏（同） 中村弘幸（同）
瀧橋洋祐（副主任） 松浦 満（同） 青木俊介（主事）

X. 各種資料

1. 石見銀山遺跡に関する活動等日誌（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

■平成20年

□4月

- 4/14～16 市) 昭和のくらし博物館館長小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導
- 4/23～25 縣市) 九州大学名誉教授井澤英二氏・国立科学博物館鈴木一義氏調査指導
(於：世界遺産センター他)
- 4/26～11/30 市) 大久保間歩一般(限定)公開ツアー
- 4/26～5/31 市) 石見銀山パーク&ライド交通実証実験(於：大森町)

□5月

- 5/10 市) 金銀銅サミットin新居浜(於：愛媛県新居浜市)
- 5/20 縣市) 第1回石見銀山遺跡保存管理委員会幹事会(於：鳥根県民会館)
- 5/29 縣市) 第1回石見銀山遺跡保存管理委員会(於：鳥根県民会館)
- 5/31～7/6 県) 世界遺産登録1周年記念 石州銀展(於：古代出雲歴史博物館)

□6月

- 6/2 縣市) 石造物調査指導会(於：温泉津町)
- 6/7 県) 平成20年度第1回文献調査指導会(於：古代出雲歴史博物館)
- 6/9 県) 三谷家文書調査／三谷家(於：福岡県大牟田市)
- 6/18 市) 第1回石見銀山基金募金委員会理事会(於：大田商工会議所)
- 6/18 縣市) 石見銀山遺跡客員共同事前検討会現地調査(於：大森町・温泉津町)
- 6/19 縣市) 石見銀山遺跡客員共同事前検討会(於：あすてらす)
- 6/27 市) 第4回石見銀山遺跡整備検討委員会(於：大田市役所)

□7月

- 7/2 市) 世界遺産登録1周年記念イベント
「龍源寺間歩、重要文化財熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家の無料開放」
「石見銀山メニュー給食(於：市内小中学校)」
- 7/6 市) 第8回クリーン銀山(於：大森町・温泉津町・仁摩町)
- 7/7～ **北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)が、洞爺湖町で開催。主要8カ国(G8)に加え、史上最多の14カ国から首脳が参加**
- 7/8・9 市) 文化庁記念物課佐藤主任調査官現地指導(於：大森町)
- 7/10～11 市) 小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導
- 7/11 市) 平成20年度第1回大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会
(於：町並み交流C)
- 7/15 県) 温泉津町誌編纂関連史料調査(於：温泉津町)
- 7/19 縣市) 世界遺産登録1周年記念シンポジウム(於：江戸東京博物館)
- 7/19 民) 「ごうぎん希望の森・石見銀山」保全活動(於：ふれあいの森公園)

- 7/28 県) 平成20年度第2回文献調査指導会 (於: 松江市)
- 8月
- 8/2 県) 世界遺産登録1周年記念講演会 (於: 江戸東京博物館)
- 8/4~6 県) 温泉津町誌編纂関連史料調査 (於: 温泉津町)
- 8/5~6 市) 文化庁記念物課市原調査官現地指導 (於: 大森町)
- 8/8~24 **第29回夏季五輪 北京オリンピック開催 (204の国と地域が参加)**
- 8/12 市) 第2回石見銀山基金募金委員会理事会 (於: 大田商工会議所)
- 8/18~20・22 県市) 平成20年度第1回石見銀山遺跡客員共同検討会遺跡現地調査
(於: 大森町・温泉津町)
- 8/19・21 県市) 平成20年度第1回石見銀山遺跡客員共同検討会 (於: 世界遺産センター)
- 8/26~28 県市) 石造物調査指導会 (於: 温泉津町)
- 9月
- 9/3 市) 三瓶自然館サヒメル中村唯史氏清水谷製錬所跡石垣石材調査現地指導
- 9/8~10 県) 温泉津町誌編纂関連史料調査 (於: 温泉津町)
- 9/12 市) 「人権尊重都市」を宣言
- 9/15 民) NPO緑と水の連絡会議竹林伐採イベント (於: 大森町仙ノ山)
- 9/15 **米証券大手リーマン・ブラザーズが、連邦破産法11条の適用を申請する、と発表し、経営破綻。**
- 9/18~21 民) 石見銀山体験講座「石見銀山三日籠もり」 (於: 石見銀山遺跡)
- 9/24 **自民党総裁の麻生太郎氏が、第92代内閣総理大臣に選出。**
- 10月
- 10/4 県) 世界遺産登録1周年記念座談会 (於: 兵庫県立考古博物館)
- 10/15 市) 石見銀山世界遺産センター2期工事竣工内覧会 (大森町・水上町民他)
- 10/19・20 市) 文化庁記念物課三宅調査官現地指導 (於: 大森町他)
- 10/20 市) 石見銀山世界遺産センターフルオープン記念式典、
「展示棟」・「収蔵体験棟」供用開始
- 10/21 県市) 科学調査指導会 (於: 世界遺産センター)
- 10/22~24 市) 小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導
- 10/28~30 市) 市伝建審委員村田信夫氏渡辺家住宅保存修理現地指導
- 10/30 セ) 石見銀山世界遺産センター整備総合監修者町田章氏指導会
(於: 世界遺産センター)
- 11月
- 11/9 民) 「ごうぎん希望の森・石見銀山」保全活動 (於: ふれあいの森公園)
- 11/19 市) 三瓶自然館サヒメル井上雅仁氏清水谷地区樹木調査現地指導
- 11/20~22 市) 文化庁記念物課市原調査官現地指導 (於: 大森町他)
- 11/21 市) 第5回石見銀山遺跡整備検討委員会 (於: 大田市役所)
- 11/22 セ) 世界遺産センター展示室1万人達成 (フルオープン34日目)
- 11/23 県) 世界遺産登録1周年記念講演会 (於: 千葉県立中央博物館)

11/29 セ) 福光石の加工体験 (於: 世界遺産センター)

□12月

12/10・11 県) 奈良文化財研究所小池伸彦氏指導会 (於: 大森町)

12/11 **日本人4名がノーベル賞を受賞。**

12/19 縣市) 第2回石見銀山遺跡調査活用委員会 (於: 世界遺産センター)

12/21 市) 発掘調査現地説明会 (於: 大森町清水谷製錬所跡)

12/25 市) 平成20年度第2回大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会
(於: 温泉津コミュニティC)

12/26 市) 小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導

■平成21年

□1月

1/17 県) 世界遺産登録1周年記念講演会 (於: 沖縄県立博物館・美術館)

1/17~18 縣市) 鳥根ふるさとフェア (於: 広島県立総合体育館)

1/19~3/31 セ) 清水谷製錬所跡発掘調査速報展 (於: 世界遺産センター)

1/19~3/31 セ) 福光石の加工体験作品展 (於: 世界遺産センター)

1/21 **バラク・オバマ氏が第44代米大統領に就任。**

1/24 セ) 平成20年度第1回世界遺産センター公開講座
「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」

1/27 市) 鳥根大学教授横田修一郎氏大久保間歩坑口付近安全対策現地指導

□2月

2/4 縣市) 第1回人権・同和問題調査にかかる調査指導会 (於: 松江市)

2/12 セ) 第1回展示解説講座 (於: 世界遺産センター)

2/18 県) 奥田元宋小由女美術館館長村上勇氏調査指導 (於: 世界遺産センター他)

2/19 セ) 第2回展示解説講座 (於: 世界遺産センター)

2/21・22 縣市) 平成20年度第2回石見銀山遺跡客員共同検討会 (於: 世界遺産センター)

2/24・25 市) 村田信夫氏渡辺家住宅保存修理現地指導

2/26 セ) 第3回展示解説講座 (於: 世界遺産センター)

□3月

3/7 民) 「三井住友海上の森」保全活動 (於: ふれあいの森公園)

3/9 縣市) 石見銀山協働会議運営委員会 (於: 大田市役所)

3/11 縣市) 第2回人権・同和問題調査にかかる調査指導会 (於: 松江市)

3/12 県) 石造物調査指導会 (於: 大森町)

3/14 セ) 平成20年度第2回世界遺産センター公開講座「銀と貨幣」
・体験イベント「丁銀づくり、こなし、砂銀採り体験」

3/18 縣市) 奈良文化財研究所肥塚隆保・高妻洋成・脇谷草一郎氏調査指導
(於: 世界遺産センターほか)

- 3 /22 縣市) 第7回石見銀山協働会議全体会 (於:大田商工会議所)
- 3 /23・24 市) 小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導
- 3 /24 市) 平成20年度第3回大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会
(於:大田市役所)
- 3 /29 県) 久喜大林鉦山現地調査 (於:邑南町)
- 3 /31 市) 石見銀山世界遺産センター整備に関するすべての事業完工

※市=大田市事業、県=鳥根県事業、セ=世界遺産センター事業、民=民間事業

2. 石見銀山関係予算（平成20年度）

【大田市分】

（単位：千円）

事業名称	予算額	事業内容
友好都市「笠岡市」との交流促進事業	200	少年サッカー交流事業（大田サッカークラブ）補助
石見銀山協働推進事業	3,430	石見銀山協働会議全体会の開催 外
石見銀山基金事業	2,686	寄附協力要請、石見銀山基金募金委員会負担金
石見銀山基金・新規積立金	64,501	一般寄附金（466件）、県補助金、龍源寺間歩入場料
芋振興外農業機械導入事業（農山漁村活性化支援交付金事業）	2,706	集出荷貯蔵施設改修（1棟）及び芋掘機購入に対する補助（事業主体：J A石見銀山）
仙ノ山線整備事業（農山漁村活性化支援交付金事業）	204,200	仙ノ山線整備 舗装工事 3,800m、遊歩道整備 520m
産業振興プロジェクト推進事業（ふるさと大田創業支援事業分）	4,443	観光商業活性化事業 4件（うち継続分 2件）
イベント補助金	1,800	天領さん、温泉津夏祭りに対するイベント補助
大田市観光ガイド養成事業	1,000	石見銀山ガイドの養成
石見銀山観光客対策事業	20,000	銀山受入対策（交通誘導員配置、誘導案内看板作成費、交通対策周知経費 外）
石見銀山龍源寺間歩管理運営費	18,000	石見銀山龍源寺間歩管理運営費
石見銀山龍源寺間歩整備事業	2,203	龍源寺間歩出口改修
石見銀山遺跡観光環境整備事業	25,020	展望台・休憩所（3棟）建築、休憩用ベンチ、電動自転車、電動車いす
街なみ環境整備事業	232,542	旧銀山街道の無電柱化、道路舗装、側溝整備を中心とした整備（H17～20）H20：L=301m
石見銀山公園整備事業	3,662	銀山公園内遊歩道の改修 L=41m、W=1.2m 防護柵・防犯灯設置
審議会委員報酬等	259	重要伝統的建造物群審議会開催経費
町並み交流センター管理運営費	6,496	町並み交流センター管理運営費
武家屋敷管理運営費	4,500	武家屋敷管理運営費
石見銀山遺跡総合調査事業	16,768	石見銀山遺跡の発掘調査、出土遺物の保存処理
石見銀山遺跡総合整備活用事業	104,401	銀山柵内間歩の安全対策や清水谷製錬所跡・本谷地区等の整備活用
史跡渡辺家住宅保存活用事業	37,850	史跡渡辺家住宅の保存修理
石見銀山遺跡拠点施設整備事業	131,699	展示棟・収蔵体験棟建築、展示工事、第1駐車場整備、ガイドンス映像制作、備品購入 外
石見銀山遺跡拠点施設等管理運営費	37,310	世界遺産センター管理運営費
石見銀山遺跡史跡公有化事業	11,013	龍昌寺跡、下河原地区の土地買い上げ
大久保間歩管理運営費	11,000	大久保間歩一般公開に係る管理運営費
重要伝統的建造物群保存地区整備事業	60,936	国補助大森5件・温泉津9件、市単補助大森5件
重要文化財熊谷家住宅活用事業	17,200	くらしの展示・体験学習・日常管理・保守点検業務委託外
国指定文化財保存修理事業	11,146	史跡羅漢寺五百羅漢の保存修理に対する補助
鳥根県指定文化財修理事業補助	13,455	史跡柳原家の建造物保存修理に対する補助
その他物件費等	180	防災施設管理費等
観光協会補助	21,500	観光協会への運営助成
販売拠点施設整備事業（農山漁村活性化支援交付金事業）	13,985	特産品販売拠点施設（1棟 100㎡）整備補助（事業主体：J A石見銀山）
合計	1,086,091	

※予算額は、平成20年度3月補正後の予算額

【島根県分】

(単位：千円)

事業名称	予算額	事業内容
石見銀山遺跡調査活用委員会	2,043	専門家や有識者で構成する、石見銀山遺跡の調査活用に係る指導・助言機関
基礎調査研究事業（考古学）	6,801	埋蔵文化財発掘調査（大田市）に係る補助、石造物調査等
基礎調査研究事業（歴史・民俗学）	4,775	文献調査等
基礎調査研究事業（自然科学）	3,424	考古資料分析調査、生物環境調査等
文献調査嘱託費	2,079	
テーマ別調査研究事業（石見銀山遺跡）	4,000	石見銀山遺跡に係るテーマを、客員研究員と共同で調査研究（3年間）※テーマ＝「最盛期石見銀山の復元」
テーマ別調査研究事業（鉱山遺跡比較）	2,000	鉱山遺跡比較に係るテーマを、客員研究員と共同で調査研究（3年間）※テーマ＝「東アジアの鉱山比較」
シンポジウム開催事業	5,000	「世界遺産登録1周年記念事業」を1都3県で開催
世界遺産保存管理費	3,000	
史跡等総合整備活用推進事業	35,309	銀山柵内間歩の安全対策、清水谷製錬所跡・本谷地区等の整備活用、渡辺家住宅の保存修理等 ※大田市への補助金
史跡等保存整備事業	11,146	羅漢寺五百羅漢の保存修理に対する補助
県指定文化財修理事業	20,346	柳原家、青山家の建造物保存修理に対する補助
史跡等購入事業	1,100	龍昌寺跡、下河原地区の土地買上げ ※大田市への補助金
重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	9,513	大森地区5件、温泉津地区9件 ※大田市への補助金
重要伝統的建造物群保存地区保存調査事業	500	※大田市への補助金
石見銀山遺跡調査業務	350	温泉津重伝建地区の範囲拡大に係る調査業務 ※大田市への補助金
定時ガイド事業	5,070	銀山公園→龍源寺間歩の定時ガイド事業 ※委託先＝石見銀山ガイドの会
案内業務支援事業	5,292	遺跡現地及び世界遺産センターの案内担当職員配置に対する補助 ※大田市への補助金
情報発信事業	4,150	パンフレット等作成費
拠点施設整備事業	26,529	世界遺産センターの整備費を支援 ※大田市への交付金
石見銀山地域振興補助金	35,000	エコハイブリッドバスの導入、休憩所の設置等の「環境に配慮した来訪者受入対策」の実施に対する支援（財源＝国の地方分権振興交付金）※大田市への補助金
拠点施設管理運営事業	16,645	世界遺産センターの管理運営を支援 ※大田市への交付金
ユネスコ提出資料作成費	228	文化庁協議に係る経費
石見銀山基金造成支援事業	1,501	石見銀山遺跡の保存活用に係る官民の協働事業を支援する大田市基金の造成を支援 ※大田市への補助金
治山事業（要害山落石緊急対策）	61,200	要害山斜面崩壊地の復旧、過去の落石により生じた転石の除去、発生源対策等の工事を実施
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業	23,040	大森町町上地区の人家裏斜面で発生した落石事故を受けて、災害防止対策工事を実施
合計	290,041	

※予算額は、平成20年度2月補正後の予算額

3. 刊行物等

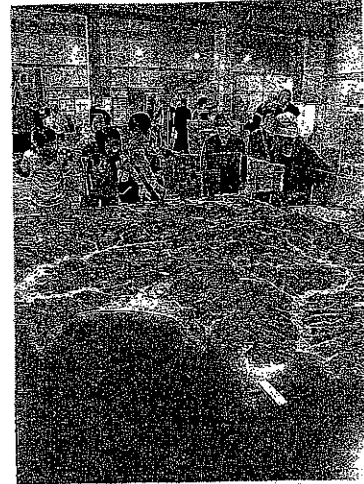
平成19年度刊行物等一覧

No	種類	機関	書名・タイトル	備考・製作者等
1	書籍	鳥根県教育委員会	『世界遺産石見銀山遺跡とその文化的景観』公式記録誌	
2	〃	鳥根県教育委員会	『世界遺産石見銀山遺跡とその文化的景観』関連資料集	
3	調査報告書	鳥根県教育委員会 大田市教育委員会	『石見銀山遺跡石造物調査報告書』 8	
4	〃	鳥根県教育委員会	『石見銀山文献調査報告書』 IV	
5	〃	大田市教育委員会	『石見銀山遺跡発掘調査概要』 17	
6	修理概報	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報87	
7	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報88	
8	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報89	
9	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報90	
10	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 3	
11	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 4	
12	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 5	
13	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 6	
14	映像	大田市教育委員会	遺跡ガイドンス映像「石見銀山10の鍵」	TBS

平成20年度刊行物等一覧

No	種類	機関	書名・タイトル	備考・製作者等
1	調査報告書	鳥根県教育委員会 大田市教育委員会	『石見銀山遺跡石造物調査報告書』 9	
2	〃	大田市教育委員会	『石見銀山遺跡発掘調査概要』 18	
3	修理概報	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報91	
4	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報92	
5	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報93	
6	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 7	
7	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報 8	
8	映像	大田市教育委員会	児童生徒向け解説映像「知ろう！探ろう！石見銀山」	(株)トータルメディア開発研究所

4. 関連記事



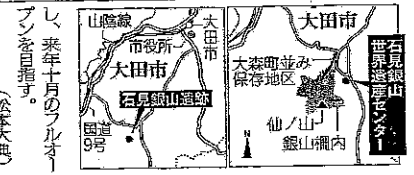
世界遺産・石見銀山の全体像を模型などで紹介するガイドス様

石見 銀山

新案内拠点オープン

急増する観光客に対応

石見銀山世界遺産センター合設運営エリアの構築や、ターのガイダンス棟が四月、大田市大森町の市民ホール、一六〇二年に描かれた森公園にオープンした。七月の世界遺産登録で急増する石見銀山遺跡の来訪者に、見とくや交通・観光情報を提供するため、大田市の約三億七千万円で建設した施設は木造平屋七百六十平方メートル、街並み、港などを再現し、案内・案内係、スタッフが遺跡の魅力を伝える。入館無料。収蔵体験棟を隣接整備

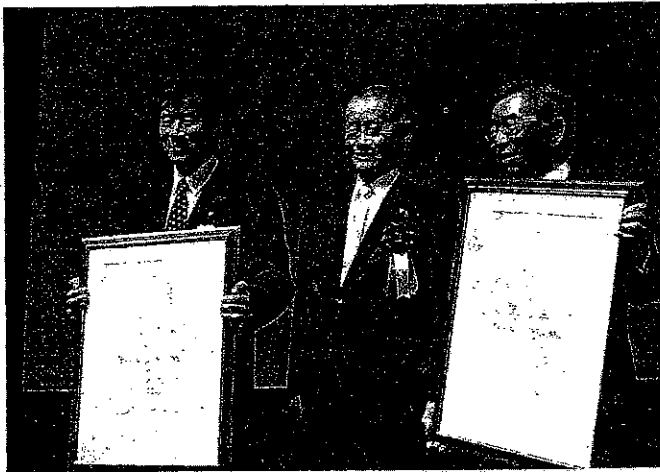


来年十月のフルオープンを目指す。(松本大典)

中国新聞社 2007.10.5

世界の宝を未来へ

石見銀山遺跡



認定書を受け取る溝口知事（右）と竹腰市長（左）=11日、あすてらす

世界遺産認定書を伝達

石見銀山遺跡が七月世界遺産に登録されたこと

を記念して十一月、大田市大田町のあすてらすまで、県教育委員会、大田市、市教育委員会が主催し、世界遺産登録記念式典が行われた。来賓者、招待者約二百五十人が集い、改めて遺跡の世界遺産登録を祝い、保存と未来への継承を再確認した。

溝口市長は、世界遺産の登録は、自然と共生した偉大な遺産である。石見銀山遺跡は地域の宝である。未来に引き継ぐ努力を怠らぬことを誓った。市長は、目的を達成するためには、市民の理解と協力を得なければならない。今回の認定は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。

市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。

市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。市長は、市民の理解と協力を得るための第一歩である。

島根日日新聞社 2007.11.13

大田市で記念式典

町並み保存地区のパーク&ライド

見直し案を了承

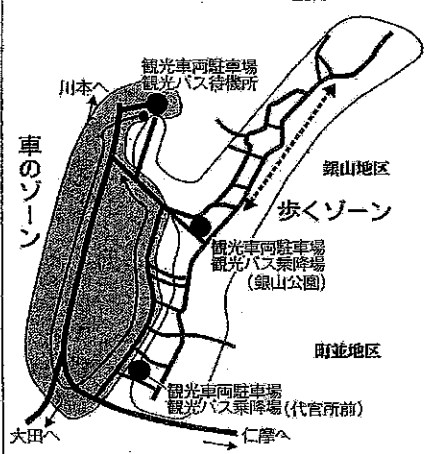
銀山バス路線、10月に廃止

大田市議会全員協

世界遺産・石見銀山遺跡の町並み保存地区（大田市大森町）で、昨年4月から始まったパーク&ライドの見直しを検討していた大田市は18日、銀山地区の路線バス廃止や駐車場の有料化、小型電気バスの導入実験などを市議会全員協議会に提案し、了承された。

案によると、町並み保存地区と観光スポットの龍源寺間歩を結ぶ路線バスを10月1日に廃止。パーク&ライドで利用する世界遺産センター駐車場と町並みを結ぶ路線バスを増便し、周回型に変更する。また、駐車場の利用は遺跡の保全協力費として料金（未定）を徴収。

石見銀山パーク&ライド見直し(案)の体系



「車のゾーン」の実線矢印部分は、旧県道内における渋滞緩和のため、路線バスを県道経由左回りの周回型へ変更する。「歩くゾーン」の点線矢印部分は、歩行者補完のため福祉車両などの移動手段を検討する。

いずれも地元やバス会社の同意があれば、前倒しで実施する。

市は4月26日から5月未まで、案に沿った交通実験を行う。また4月中旬には、北陸電力が開発した電気バスの走行実験も行う。

市は「歩く観光」を

基本的に、エリア内を区分け。世界遺産センターと町並みを結ぶ路線バスが走る県道と市道部分を「車のゾーン」とし、代官所前を中心とする町並み保存地区と、龍源寺間歩まで約3・1kmを「歩くゾーン」とした。

同区間では、銀山公園から龍源寺間歩まで路線バスが平日で18便、休日35便に増便されていたが、昨年暮れの落石事故で、1ヶ月前で折り返し運転。地元の大森町自治会協議会は、路線バスの排気ガスや騒音、震動に

▲ 毎日新聞社 2008.3.19

▼ 毎日新聞社 2008.10.9

銀山のシンボルに

石見銀山ゆかりの銀貨で、実物の25倍という丁銀の巨大レプリカ（高さ80センチ、幅26センチ、重さ25キログラム）が8日、大田市役所で披露された。20日にフルオープンする石見銀山世界遺産センター（大田市大森町）で、銀山のシンボルとして展示する。

モデルは、戦国時代に石見銀山を支配した毛利元就が、即位する正親町天皇に献上した御取納丁銀。1110枚が鑄造されたが、現存するのは、県が所有する一枚だけの「箱入り娘」とい。

「御取納丁銀」の巨大レプリカ

20日から 世界遺産センターで展示

このため同市では、本物のレプリカを東京の貴金属店に送り、色合いや質感を忠実に再現するよう発注した。銀の純度は92・5%で、制作費は約1000万円。

レプリカは世界遺産センターの展示棟（入場料300円）で披露されるが、観光客が手で触れて銀の感触を楽しめるよう展示に工夫する。竹腰副一市長は「銀の液さが伝わるようこだわったが、皆さんにさわってもらってうちに、だんだん液みが増しているんじゃないか」と、【船津健一】



丁銀の巨大レプリカと原寸大のレプリカを比べる 竹腰市長 大田市役所で

よる健康被害の恐れや子どもや高齢者の交通安全を訴え、4月1日からの「地区路線バス廃止などを市に陳情していた。【船津健一】

石見銀山遺跡

共同研究スタート

客員
検討会

2テーマ、3年間かけ

島根県内外の大学や自治体などの研究者により世界遺産の石見銀山遺跡を共同研究する第一回客員共同検討

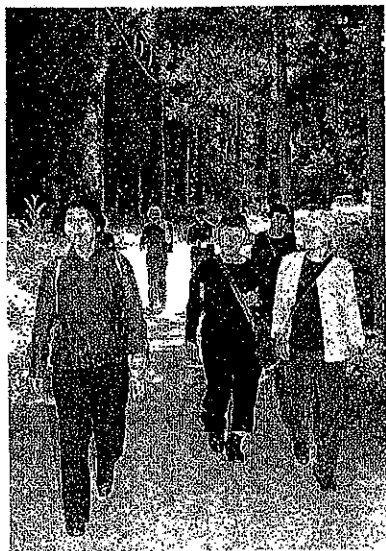
討会が二十一日、大田市大森町の石見銀山世界遺産センターで開かれた。今後、昨年七月の世界遺産登録時

に国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員

とに取組む。遺跡の調査研究を進めて価値を高める目的で、島根県が地質学や歴史地理学、考古学などの十人に客員研究員を委嘱。二〇一〇年度までの三年間、東アジアの鉱山遺跡との比較研究と、戦国時代後期から江戸初期にかけて最盛期の石見銀山の景観を中心とする復元の二つのテーマ別研究を行う。

検討会には地元研究機関の三瓶自然館や石見銀山資料館をはじめ、東京文化財研究所、九州大総合研究博物館の研究者と県、市の職員二十人が出席。大田市教委の大国晴雄教育部長らが従来の総合調査で明らかにした成果に基づき遺跡の全体像や範囲、最盛期の人口が一万〜二万人とみられることを報告。景観復元に必要な視点など今後の研究の進め方を協議した。

都市史が専門の大阪市立大大学院の仁木宏准教授は「仙ノ山山頂付近の平たんな地の広がりに感動した。数万人は往時、島根で最大の人口集中地。銀山の特徴と石見の中での位置付けを明らかにしたい」と意欲を燃やしていた。



石見銀山遺跡の銀山地区を散策する来訪者ら—大田市大森町

石見銀山遺跡

路線バス 弱者支援の声相次ぐ

歩く観光主体に

世界遺産に登録された大田市大森町の石見銀山遺跡で一日から、観光客の増加が懸念されている。観光客の増加に伴い、観光客を運ぶ路線バスの運行が困難な状況に陥っている。観光客の増加に伴い、観光客を運ぶ路線バスの運行が困難な状況に陥っている。

世界遺産に登録された大田市大森町の石見銀山遺跡で一日から、観光客の増加が懸念されている。観光客の増加に伴い、観光客を運ぶ路線バスの運行が困難な状況に陥っている。

熊本県阿蘇市の農業江藤一さん(70)は「歩く距離が長くて疲れた。途中であきらめた人も多く高齢者などへの配慮が必要」と指摘。群馬県富土見村の看護師生方利子(88)は「天候が良く歩きたき苦にならなかつた。路傍の花などの自然を満喫できて良かったけれど、障害者などの輸送手段を考へてほしい」と話した。

一方、九月二十一日から運行が始まったベロタクシーは三台がフル稼働。午前七時から五時間で、高齢者や四十人を運んだ。事業者は「福祉一さん(44)は平日でも忙しい」と汗をぬいでいた。

石見銀山遺跡 世界遺産センター

20日に完全開館へ



間歩の坑内模型など展示棟公開



本谷葉造の再現を熱心に見る人

昨年十月にガイダンス棟が開館し、残る展示棟と収蔵体験棟の整備が進められていた大田市大森町の石見銀山世界遺産センターで、二十日の完全開館直前に、十五日、地元住民への説明会が行われた。朝から大森町馬場町公民館集まり、展示をじっくりと見られた。

石見銀山世界遺産センターは、大森町の中心部に位置する。開館二十日、ガイダンス棟と展示棟(約三、六九平方メートル)は、資料館で、収蔵体験棟は三百平方メートル。御成納戸の坂大模型や、選別機模型で出土した山と船が描かれた絵巻、木製のシ、ガイダンスの案内、職人の姿のなまなまが展示されている。また、採掘機模型、採掘機の模型など、収蔵体験棟の再現を熱心に見る人

銀山センターの敷地は、大森町の中心部に位置する。開館二十日、ガイダンス棟と展示棟(約三、六九平方メートル)は、資料館で、収蔵体験棟は三百平方メートル。御成納戸の坂大模型や、選別機模型で出土した山と船が描かれた絵巻、木製のシ、ガイダンスの案内、職人の姿のなまなまが展示されている。また、採掘機模型、採掘機の模型など、収蔵体験棟の再現を熱心に見る人

島根日日新聞社 2008.10.16

銀山センター全面開館

大田展示・体験棟加わる



銀の練成作業を建物ごと再現した展示棟内を見学する式典参加者

世界遺産、石見銀山遺跡の全体像を分かりやすく紹介するため、大田市が大森町の来訪者用の大型駐車場には建設していた「石見銀山世界遺産センター」が二十日、全面オープンした。

昨年十月に先行オープンに加わった。事業費は約十一億三千円。展示棟は四つの展示室を備え、歴史を学べる。銀の練成作業を建物ごと再現し、体験棟は約三百平方メートル、収蔵体験棟は約三百平方メートルが新設された。

や、最大道、大久保間歩の遺跡大の規模を誇る。三日月間限定で、石見銀山資料館の村松政理理事長が収蔵した慶長年間の一銀山、貴重な資料も展示する。

収蔵体験棟では本年度中に、アケセザリ作りも銀山での体験学習を主体的に始める計画という。

記念式典には約百人が出席。竹腰創一市長は「センターを核に、遺跡をより生かす取り組みを進めたい」とあいさつし、テープカットを行った。

展示棟は大人三百円、小学生百五十円。

中国新聞社 2008.10.21

開館34日目で1万人

石見銀山 遺跡 世界遺産センター展示棟

大田市の世界遺産・石見銀山遺跡の玄関口として先月二十日から



記念のくす玉を割った柳井さん一家(中央が玲子さん) 11月22日午後1時ごろ

完全開館した石見銀山世界遺産センター(同市大森町)の有料の展示室の入場者が開館から三十四日目となる二十二日、一万人を達成した。一万人目の入場者となった、山口県岩国市から家族で訪れた主婦柳井玲子さん(65)がくす玉を割り、石見銀山DVDなどの記念品を受け取った。

夫の操さん(67)と二女の穂子さん(41)と三人で、銀山観光に訪れた玲子さんは、小川和邦市教育長から記念品を受け取り、「びっくりにした」と笑顔を見せた。「前から来たくてやっと実現した」と日帰りのマイカー旅行で石見銀山へ。「二十万人も人が住んでいた

と聞く。その町が今どうなっているのか」と操さんは興味津々。「展示室をじっくり見て、観光のポイントを選びたい」と話していた。

大田市石見銀山課によると、十一月二日には一日五百十八人が入場するなど、予想よりも一月半程度早く一万人に達した。

島根日日新聞社 2008.11.25

大久保間歩「超人気ツアー」

石見銀山 観光の目玉 参加率は8割超

大田市など集計



懐中電灯を頼りに、坑道の規模を実感しながら進むツアー参加者ら 大田市大森町の大久保間歩で

世界遺産・石見銀山遺跡(大田市)で、今年4月末から観光の目玉として売り出した大久保間歩ツアーが先月末で年内の催行を終了。5日、大田市と石見観光大田営業所が集

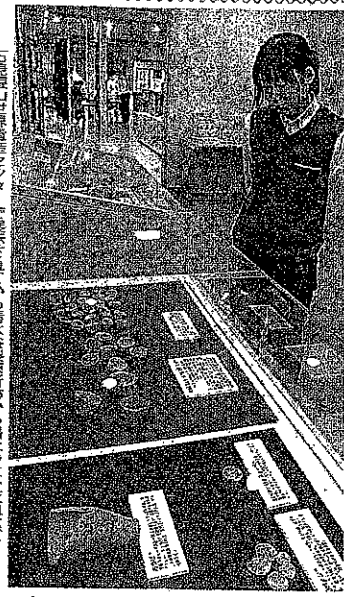
計したところ、参加率が8割を超える「超人気ツアー」だったことが分かった。大久保間歩は銀山最大規模の坑道跡で、江戸期の手掘りから明治期の機械掘りまで、銀懐中電灯を頼りに坑道内を巡る。市は世界遺産登録後の銀山観光の目玉と位置づけ、坑道内に落石防護柵や緊急連絡用の電話を設けるなど安全対策を施した。ツアーは4月26日から開始。11月末までの金、土、日曜と祝日の1日4回で、1回ごとの定員は20人。今月から2月末まで登山道の積雪や坑道内で越冬するコウモリ保護のため休止する。また、今年、年内にあったツアーは104日で393回、全回を満員と仮定すると参加可能者は7860人。これに対し実質参加者は6464人で、

毎日新聞社 2008.12.6

製錬所跡の発掘品速報展

骨灰皿や銀・鉛の合金

銀山技術史の貴重史料



石見銀山製錬所跡で出土した骨灰皿など

大田大森町の石見銀山製錬所跡で、明治期の清水谷製錬所跡の発掘調査成果を展示している。三日月一、二日である。製錬所跡では昨年、国内の銀山遺跡で初行った発掘調査が行われ、三日月から五個の骨灰皿や、西洋から輸入された...

新技術が用いられたとみられ、近日本の銀山技術史の貴重な史料となった。遺跡は、大田大森町の石見銀山製錬所跡で、明治期の清水谷製錬所跡の発掘調査成果を展示している。三日月一、二日である。製錬所跡では昨年、国内の銀山遺跡で初行った発掘調査が行われ、三日月から五個の骨灰皿や、西洋から輸入された...

石見銀山の丁銀製造 「京都から職人派遣も」

世界遺産に登録された石見銀山遺跡の歴史や歴史学を公開講座が十四日、大田市大森町の石見銀山世界遺産センターであった。早稲田大エクス...



丁銀の歴史などについて西脇氏

同センター展示工場の「ドーナツ」を造った。初期、銀座の職人が伝統的丁銀を製造したことが、石見でも職人が派遣されたことが明らかになった。...

「銀座と銀」をテーマにした講演会が、大田大森町の石見銀山製錬所跡で開催された。西脇氏は、日本の貨幣史などをテーマに講演した。...

山陰中央新報社 2009.3.17

山陰中央新報社 2009.2.8

朝日新聞社 2008.12.22

出土した骨灰皿に 明治期の銀山技術

清水谷製錬所跡で説明会

銀山の品物を調べるのに使われる容器が大量に出土した石見銀山遺跡の清水谷製錬所跡（大田市大森町）で21日、発掘調査の現地説明会を市教委が開いた。製錬所跡から骨灰皿が大量に見つかったのは全国で初めて。明治期の銀山技術を解き明かす貴重な資料と、発掘調査者が説明。地元住民や...



遺物が出土した清水谷製錬所跡を見学する人たち

清水谷製錬所は、一年半稼働して1898年に操業停止。建物は失われたが、石組みなどの遺構が残る。使用済みなどの骨をためて捨てられた骨灰皿がそのとき見つかったと市教委はみる。出土品を分析した村上隆・京都国立博物館保存修繕指導室長は「中・近世の銀生産技術「天賦法」と明治期に使われた舶来の分析技術とが同じ原理だと確認できた」と話している。

説明会に参加した松江市の女性には「まじの成り立ちを物語る遺跡を大切にしたい」と話した。

5. 大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例

平成19年9月25日

大田市条例第27号

(設置)

第1条 世界遺産として登録された石見銀山の文化的価値に対する理解を深め、もって市民の文化の振興と向上並びに学術研究の発展及び遺跡の保全活用に寄与するため、大田市石見銀山拠点施設（以下「拠点施設」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 拠点施設の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
石見銀山世界遺産センター	大田市大森町イ1597番地3

(構成)

第3条 拠点施設は、次の各号に掲げる施設をもって構成する。

- (1) ガイダンス棟
- (2) 展示棟
- (3) 収蔵体験棟
- (4) 駐車場

(開館時間)

第4条 拠点施設の開館時間は、午前8時30分から午後5時30分までとする。ただし、大田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第5条 拠点施設の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、休館日に開館し、又は臨時に休館日を定めることができる。

- (1) 毎月最終の火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

(入館の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、拠点施設への入館を拒否し、又は拠点施設からの退去を命ずることができる。

- (1) 拠点施設の施設、設備、展示品及び資料等をき損し、汚損し、又は滅失するおそれのある者
- (2) 他人に危害を加え、又は迷惑になる行為をしようとする者
- (3) 前2号に掲げる者のほか、拠点施設の管理上支障があると認められる者

(遵守事項)

第7条 拠点施設に入館しようとする者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 拠点施設の施設、設備、展示品及び資料等をき損し、汚損し、又は滅失する行為をしないこと。
- (2) 指定された場所以外で喫煙及び飲食をしないこと。
- (3) 他の入館者に危害を加え、又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (4) その他拠点施設の管理上必要な指示に違反しないこと。

(使用の許可)

第8条 拠点施設の施設及び設備（以下「施設等」という。）を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、施設等の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第9条 前条第1項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、施設等の使用の権利を譲渡し、又は転貸することはできない。

(許可の取消し等)

第10条 教育委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当するとき、又は拠点施設の管理上特に必要があると認めるときは、その許可を取り消し、又は第8条第2項の規定により付した条件を変更することができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。
- (2) 第8条第2項の規定により許可に付した条件に違反したとき。
- (3) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 前項の措置を受けたことによって使用者が損害を受けた場合においても、市は補償の責任を負わない。

(使用料)

第11条 使用者は、別表第1及び別表第2に定める使用料を納付しなければならない。

(観覧料)

第12条 拠点施設の展示室を観覧しようとする者（未就学児を除く。）は、別表第3に定める観覧料を納付しなければならない。

(使用料等の減免)

第13条 市長は、公益上その他特に必要があると認めるときは、使用料又は観覧料（以下「使用料等」という。）を減額し、又は免除することができる。

(使用料等の不還付)

第14条 既に納められた使用料等は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めるときは、これを還付することができる。

(原状回復)

第15条 使用者は、施設等の使用が終わったときは、直ちに当該施設等を原状に復さなければならない。

(損害賠償)

第16条 拠点施設の施設等及びその他の物件を故意又は過失によりき損し、汚損し、又は滅失し

た者は、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成19年10月1日から施行する。

附 則 (平成20年条例第29号)

この条例は、平成20年10月20日から施行する。

別表第1 (第11条関係)

施設使用料

区 分	使用料 (1時間につき)
オリエンテーション室	800円
多目的室	200円
体験学習室	200円

備考

- 1 使用時間が1時間未満であるときは、1時間とし、使用時間が1時間を超える場合において1時間未満の端数があるときは、これを1時間として計算する。
- 2 冷暖房設備を使用した場合は、使用料の5割相当額を加算した額を使用料とする。
- 3 使用料の額には、消費税相当額を含む。

別表第2 (第11条関係)

設備使用料

種 別	名 称	単 位	使用料	超過時間1時間当たり
音響設備	ワイヤレスマイク	1本1回	700円	200円
映像設備	ビデオプロジェクター	1式1回	4,000円	600円
	CD・DVDプレーヤー	1台1回	2,000円	300円

備考

- 1 午前 (午前9時から正午まで)、午後 (午後1時から午後5時まで) の使用区分をもってそれぞれ1回とする。
- 2 使用料の額には、消費税相当額を含む。

別表第3（第12条関係）

観覧料

区分		単位	金額	備考
個人	大人	1人につき	300円	高校生以上
	小中学生	1人につき	150円	
団体	大人	1人につき	250円	団体は、20人以上の場合とする。
	小中学生	1人につき	100円	

備考 観覧料の額には、消費税相当額を含む。

6. 大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例施行規則

平成20年10月7日

大田市教育委員会規則第10号

(趣旨)

第1条 この規則は、大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例（平成19年大田市条例第27号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(使用の許可)

第2条 条例第8条の規定により使用の許可を受けようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（様式第1号）を大田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の申請を許可したときは、使用許可書（様式第2号）を交付するものとする。

(使用後の清掃)

第3条 条例第8条第1項の許可を受けた者は、施設等の使用を終えたときは清掃及び後片付けをした後、職員の検査を受けなければならない。

(使用料の減額又は免除)

第4条 次の各号に掲げるものは、条例第13条の規定により使用料から当該各号に定める額を減額し、又は免除（以下「減免」という。）することができる。

- (1) 大田市石見銀山拠点施設（以下「拠点施設」という。）の利用を促進すると認められるもの
大田市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める額
- (2) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校が編成した教育課程に基づく活動と認められるもの
使用料の額の全額
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特別の理由があると認めるもの
教育長が別に定める額

(観覧料の減免)

第5条 次の各号に掲げるものは、条例第13条の規定により観覧料から当該各号に定める額を減免することができる。

- (1) 小学校の児童、中学校及び高等学校の生徒又はこれらに準ずる者で、学校が編成した教育課程に基づく活動により教職員に引率されて観覧するもの
観覧料の額の全額
- (2) 前号に掲げるものを引率する教職員
観覧料の額の全額
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の身体障害者手帳、療育手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者厚生相談所において知的障害者と判定された者に対して交付される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。）又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
観覧料の額の全額
- (4) 前号に掲げる者の介護者（原則として介護を受ける者と同じ人数までに限る。）
観覧料の額の全額

(5) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特別の理由があると認めるもの 教育長が別に定める額

(使用料等の減免申請)

第6条 前2条の規定により使用料及び観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ使用料減免申請書(様式第3号)又は観覧料減免申請書(様式第4号)を教育長に提出し、教育長の承認を受けなければならない。ただし、前条第3号及び第4号に掲げる者並びに同条第5号に掲げる者で教育長が別に定めるものについては、この限りでない。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成20年10月20日から施行する。

石見銀山世界遺産センター
IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER

2008 年報
(平成20年度)

2009年11月

島根県大田市教育委員会
島根県大田市大田町大田ロ1,111番地

印刷・製本 つきはし印刷



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

国際連合教育科学
文化機関(ユネスコ)



Iwami Ginzan Silver Mine and
its Cultural Landscape
Inscribed on the World Heritage List in 2007

石見銀山遺跡とその文化的景観
2007年世界遺産一覧表記載



ユネスコの精神は平和と人権尊重です